

2022年9月豊洲キャンパス本部棟オープン

芝浦建築会
2026

会報

VOL.5

volume 5

https://sit-archi.com

◎芝浦建築会　会報第五号　2026年10月31日発行

芝浦建築会
2026

C O N T E N T S

会長挨拶	学生の支援と卒業生の交流の場の芝浦建築会	辺見　強	3
理事長寄稿	芝浦建築会会報に寄せて	鈴見　健夫	4
校友会寄稿	「芝浦建築会　会報（第 5 号）」に寄せて	加藤　善次郎	4
卒業生の輪	For Rational Architecture	木村　雅一	5
	駅から始まる開発	小野　健司	5
	落ちこぼれ学生が何とか 60 歳過ぎまで建築の世界で生きてこれました。（笑）	村島　充裕	6
	建設業とともに歩んだ三十余年	杉野　泰雄	6
	住まいを通して世界を見る	福田　朋宏	8
	はじっこが好き。	高杉　諭吏	8
	建築施工管理として歩んだ 30 年、そしてこれから	西郷　一夫	8
	建築を離れたけれど、建築はずっとそばにあります。	米嶋　貢	8
	あたらしいもの、ふるいもの	服部　敦史	8
	七転び八起き	小堀　文剛	9
	「んー、健康だね。」	堀切　満洋	9
イベント報告	相田先生を囲む会　（相田研究室 OB 会；通称@会）開催報告		10
	「坂倉建築研究所展」開催報告		10
	芝浦工業大学第 5 回建築家展「芝浦 11 イレブン建築家展」開催報告		11
教員研紹介	建築空間創りと室内空気質	金　　勲	11
	着任のご挨拶	永井　佑季	11
	着任のご挨拶	テイ　チュウ	12
	退職のご挨拶	古賀　純子	12
	退職のご挨拶	中島　直道	13
学科報告	2025 年度の学科の近況と学生の活躍	秋元　孝之	13
2025 年度芝浦建築会会費納入者及び寄付者			15
会計報告　2025 年度会計報告　2026 年度予算案			16
イベント案内　「藤井博巳先生を偲ぶ会」のご案内			16
会費納入のお願い			16
2026 年役員名簿			16
あとがき		百瀬　和浩	16

会長挨拶

学生への支援と卒業生の交流の場の芝浦建築会



玒刀　強（くぬぎ つよし）
1976年 工学部建築学科卒
1978年 大学院修了

２０２６年元旦、本栖湖畔からのダイヤモンド富士に、皆様の健康と芝浦建築会の発展を祈願致しました。２０１７年に建築学部建築学科が誕生し、２０２１年3月に初めての卒業生を送り出すまでに建築学科建築会、建築工学科建友会は新たな卒業生の会の設立の議論を進めていました。２０２０年に思わぬコロナの流行があり人との交流が憚られ、設立は叶いませんでした。紆余曲折はありましたが建築会と建友会は解散し、２０２１年１２月に『芝浦建築会』は漸く設立総会を開催することが出来ました。２０２３年には校友会支部となりました。

今年も過去１０年に遡り会費を納入した会員に会報を送付しています。また現役の学生・院生には全員に無償配布します。芝浦建築会のホームページでは日頃の活動やイベントの報告と共に、この会報も郵送と同時に掲載しております。

２０２５年度の活動を振り返りますと、２０２５年6月13日には交流棟大講義室にて就職座談会が学部３年生と院１年生を対象に開催され、意匠設計、構造設計、都市計画、建設管理、公務員など各分野で活躍している卒業生に実体験をもとに講演して頂きました。学生からは就職にあたり今何をしたら良いか等の質疑があり、講演者から大学の授業以外に幅広く学び、交友することが大事である等の回答があり、当会が卒業生を顕彰する芝浦建築会賞の選定基準と重なり、我が意を得たりと同感致しました。

２０２５年１０月３０日には本大学全学生が参加可能なデザインチャンピオンシップの公開審査会が開催されました。建築学会会長や建築家協会会長を歴任された環境デザイン研究所代表の仙田満先生と日本建築構造技術者協会元会長であり、建築構造設計の第１人者である金箱構造設計事務所代表の金箱温春先生により出題されたスタジアムの審査が実施されました。審査後の懇親会の冒頭で芝浦建築会を代表して両先生へのお礼とこのイベントに参加する意義やこのイベントへの助成をしていることの報告を兼ねて挨拶をさせて頂きました。

昨年の会報第４号では１２月の坂倉建築研究所展の案内を掲載し、１１月初旬に会員の皆様に送付することができました。坂倉建築研究所には本学から大木所長以下９名の卒業生が在籍し、卒業生の関わった作品を中心に１２月１２日、１３日の2日間交流プラザで建築展を開催し、2日間で150名余りの人が来場し、建築展後の懇親会では本学卒業の坂倉研究所所員１人々々にコメントしてもらうなど学生も参加した有意義な会となりました。

年が明け２０２６年３月１７日に建築学科及び建築学専攻の学位記・表彰状授与式が豊洲の大講義室にて催され、『芝浦建築会』として学部卒業生を対象に成績順位に関係なく、幅広く学び努力した「最多単位取得者」上位3名に今後の活躍を期待し『芝浦建築会賞』を授与しました。



3人の芝浦建築会賞受賞者の挨拶

２０２６年６月２７日には豊洲キャンパス交流棟４階にて、芝浦建築会第５回通常総会及び校友会芝浦建築会支部総会を開催しました。この日は悪天候が予想され、急遽出席予定者にはメール等で連絡をとり、リモート主体の総会に切り替えましたが、出席する会員も想定し準備を行いました。幸い当日は悪天候にはなりませんでした。一般の会員２名、役員９名の出席とリモート２６名計３７名にて、議長は百瀬副会長、議事録記録人は宮谷幹事、議事録署名人は西郷幹事、石黒幹事を選任し、総会議事は進められ、全ての議案に賛成を頂き、無事終えることが出来ました。記念講演は今年から建築学科教授に就任された金先生にリモートで『室内空気質と最近の課題』をテーマに講演して頂きました。



『芝浦建築会』は現役学生への支援活動と、卒業生に対しては交流を通し、卒業後の拠り所となる活動を目指して行きたいと考えております。来年の『芝浦建築会』通常総会は6月２６日（土）に予定しています。会員の懇親を図り楽しい時間を共に過ごして頂きたいと思っています。これからも会員の皆さんの温かいご支援とご協力宜しくお願い申し上げます。

【芝浦建築会会長】

理事長寄稿　芝浦建築会会報に寄せて



鈴見　健夫（すずみ たけお）
1970年 建築学科卒

芝浦建築会の会報『第５号』の発行おめでとうございます。

いよいよ来年、2027年に本学は創立100周年という大きな節目を迎えます。東京高等工商学校として、商業学科、土木工学科、建築工学科の３学科からスタートした本学の歴史を振り返りますと、建築はまさに本学創立以来の伝統を受け継ぐ分野の一つです。私自身、建築学科の卒業生として、この記念すべき年を迎えることに、ひとしおの感慨を覚えております。

さて本学は現在、創立100周年に向けた長期ビジョン「Centennial SIT Action」のもと、様々な改革を着実に進めております。キャンパス整備については、昨年12月には大宮キャンパスに新たな校舎「創発棟」が完成し、今年春から本格的に利用を開始しました。

また教育改革も進めており、2026年度にはシステム理工学部を従来の学科制から５課程11コースによる課程制へと移行し、学際科目やモジュール制を導入しました。従来の専門分野の枠を越えて学ぶことのできる教育体制を構築し、複雑化する社会課題を分野横断的な視点から解決できる理工系人材の育成に取り組んでいます。

本学の伝統的な強みである就職・キャリア支援についても、その成果は着実に表れており、2025年度卒業生の就職率は99.5%となりました。また今年発表された「有名企業400社実就職率ランキング」では過去最高の42.4%となり、全国８位、学生数1000名以上の私立大学で慶応、理科大に次ぐ３位となるなど、社会から高い評価をいただいています。こうした実績が、昨年度入試において53,000人を超える過去最高の志願者数となったことにもつながっているものと確信しています。

さらに、本学の特色の一つであるグローバル化を一層進め、海外から優秀な学生を迎えるとともに、海外大学との教育研究交流や国際共同研究を活発化させ、世界に開かれた理工系大学としての存在感をさらに高めてまいります。

間もなく迎える創立100周年は、決してゴールではありません。次の100年に向けて、社会の変化を先取りし、新しい価値を創り出す大学へと進化していくための新たな出発点です。教育・研究・社会貢献のさらなる充実に努め、卒業生の皆様にこれまで以上に誇りを持っていただける大学であり続けたいと考えております。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

【学校法人芝浦工業大学理事長】

校友会寄稿　「芝浦建築会　会報（第5号）」に寄せて



加藤　善次郎（かとう ぜんじろう）
1980年 工学部機械工学科卒

芝浦建築会の皆様、ご家族の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。日頃より、校友会活動に多大なるご支援を賜り、改めまして厚く御礼申し上げます。

校友会では、建築学部の創設以来、旧建築学科、旧建築工学科をはじめとする建築系卒業生の会の設立を、かねてより切に願っておりました。辺刀会長をはじめ、多くの先輩方のご尽力により、2021年12月に「芝浦建築会」が設立され、翌2022年12月には校友会支部として新たな歩みを始められましたこと、改めまして心より御礼申し上げます。

また、本年６月には第５回通常総会が開催されたとのこと、誠におめでとうございます。芝浦建築会の活動が着実に発展されていることを、大変嬉しく思っております。

ここで、校友会から芝浦建築会の皆様に、ぜひお願いしたいことがございます。昨年の寄稿文でもお願い申し上げましたが、現在、校友会には地域支部、海外支部、職域支部および同好支部の計98支部があります。一方で、建設会社を中心とした職域支部の中には、現在活動を行っておらず、いわゆる休眠支部となっている支部も少なくありません。

校友会では、2027年の本学創立100周年に向け、支部活動の活性化を目的として、組織委員会を中心に各支部の総点検を進めております。その中で、休眠支部の統廃合や廃止についても検討する予定です。

その際、これら建設会社を中心とした休眠職域支部に在籍する会員の皆様を、ぜひ芝浦建築会に受け入れていただき、校友の皆様にとって新たな交流とつながりの場となっていただければと願っております。

具体的な内容につきましては、本村組織委員長からご相談させていただいていることと存じますが、芝浦建築会の皆様には、ぜひご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

そして、来年の全国総会・懇親会は、ゆりかもめ台場駅直結のグランドニッコー東京 台場にて、６月12日（土）に開催する予定です。

また、2028年度の校友会創立100周年記念全国総会･懇親会は、1,000人規模の開催を目指し、同じくグランドニッコー東京 台場にて、2028年６月10日（土）に開催する予定です。

ぜひ今からご予定をお繰り合わせのうえ、多くの皆様にご来場賜りますようお願い申し上げます。皆様と直接お目にかかれますことを、心より楽しみにしております。

最後になりましたが、芝浦建築会の皆様ならびにご家族の皆様のますますのご繁栄とご健勝を心よりご祈念申し上げ、寄稿のご挨拶とさせていただきます。

【芝浦工業大学校友会会長】

卒業生の輪

For Rational Architecture



木村　雅一（きむら まさかず）
1982年工学部建築学科卒（峰岸研究室）
1984年工学部建設工学専攻修士課程
（峰岸研究室）

1984年に大学院を卒業して早42年、日建設計では約150プロジェクトに参画し約50棟が竣工しました、延床面積は約400万㎡になります。（現在工事中含め…）

その中でもやはり芝浦工業大学豊洲キャンパスのI期の設計監理は非常に思い出深いものです。丁度、部長に昇格して初めてのプロポーザルが豊洲キャンパスでした、案を選ぶプロポーザルでは無かったのですが、競合相手も丁度同じ世代の同級生の顔が浮かびました、また理事長は恩師の石川先生でしたし、結構なプレッシャーでした。

幸か不幸か当選後、当初から旧田町キャンパスで経験できなかったCampus Lifeをテーマに設計を進めました。限りある敷地でUrban Campusとして、機能を縦積みせざるを得ないのですが、その中心に図書館を設け、そこに至る動線を出来るだけ楽しく立体的に体験でき、また教職員や学生同士が顔を合わせやすい計画としました。

ほぼすべての建築の構成はRationalであるべきという信念を持っていますので、構造とSystemは100年経っても持ちこたえるだけのインフラとしたいと、免震構造やSkelton & Infillを意識した設備計画、またほとんどの床はOAフロアとし、教室と廊下（という概念）の境をなくしました。

実験内容の変化の激しい研究棟はメンテや更新が容易で高速道路等に使う汎用な材料で外付けの縦シャフトを採用。誰言うとなく研究棟は凱旋門と呼ばれていますが、伊達や酔狂で大穴を開けたわけではなく、風環境が非常に厳しいこの湾岸エリアでこのVolumeの棟を作るとキャンパスプロムナードが年中、強風になってしまい使い物にならない状況となります。そこで風のシミュレーションにより大きな風穴を設け、上空で風を抜いて強風が下がって来ない工夫（ブリッジがその役目をしています）をしました。

大概のことは対応可能と思い、設計・入札・着工したのですが…なんと着工後すぐに１～４年までが豊洲キャンパスだったはずが、１～２年は大宮キャンパスに残るという結論になり、中のLayoutはほとんどやり直し、幸い鉄骨のスリーブは空けられるだけ開け、床もほとんど下げ、相当Flexibleな設計にしていたので何とかなりましたが、大手術の繰り返しではありました。

竣工後、東北の大震災の際も８階にある図書館の本は一冊も落下しなかったと館長に褒められましたし、６階の大講義室で学会をやっていたらしいのですが、地震だとは分かったようですが、普通に終わって外に出たら殆どのInfraが止まっていて免震の性能をいたく感心されていました。以降も未だに大きなトラブルは無いようで、II期の本部棟に引き継ぐことが出来ました。本当は自分の手で本部棟もやりたかったのですが、既に中東やロシアの設計担当役員として世界中を飛び回っていたのでとても叶いませんでした。

しかし、あの時こうしていれば…との後悔もあります。元々Wウイング形状のマスタープランを考えていましたが、北西側（今の教室・交流棟）は日影規制が厳しく高さが制限されています。当時は隣接の計画も未確定で何もなく、当初私は北東側を高くしてI期にするように提案したのですが、II期なんていつになるかわからないし、キャンパスプロムナードに大きな影を落とす計画なんてあり得ないと理事長に一喝されました。（それもRationalだなとその時は思いましたが）

今思うとあの時北東側から建設していれば、隣接の住宅（隣の豊洲The Symbolも私の設計なのですが・・・）からの強烈な反対も起こらず、もっとFlexibleな配置計画が出来て居たろうなと、後悔とII期の設計者（元の私の部下）に申し訳ない気持ちです。将来を見据えたRationalな配置計画が出来なかったという事になります。（信念が足りなかったということですね！）

そろそろ日建設計も卒業して、次のStageに移ろうかと考えています、For Rational Architectureを今後も追及していきたいと考えています。



I期竣工当時の豊洲キャンパス
【株式会社日建設計、芝浦工業大学常務理事】

駅から始まる開発



小野　健司（おの けんじ）
2003年 建築工学科卒（大内研究室）
2005年 大学院修了（大内研究室）

東武鉄道に入社して22年目を迎えています。ずっと鉄道畑を歩んできて高架化・橋上化に伴う駅舎などをつくってまいりました。国や自治体の補助金での整備となるため行政との連携で成り立つわけですが、官民各々の関係理解を深めるうえで、恩師である大内浩先生の「地域とのつながりの大切さ」という学びが本当に役立っていると感じています。現在は、２年前に開発畑へ異動して様々なプロジェクトに携わっているところです。

2012年には、社として東京スカイツリーを開業させるという経験をしました。衰退していた浅草界隈が、タワー建設の最中から息を吹き返し、現在では多くのインバウンドを迎え入れ日々大変な活況となっています。ランドマークとなる建築は“まちの活性化の起爆剤”となることを目の当たりにしたわけですが、現在

も浅草、そして東京スカイツリータウンが賑わい続けられるのも、同じく大内先生から学んだ「つくり上げた建築・まちを想い、行動し続けることの大切さ」が生きています。附属高校時代を含め、芝浦で多くの先生・仲間に出会えたおかげです。

さて話は変わり、今期から芝浦建築会の幹事を拝命しました。ちょうど10年前に大宮公園駅を改築したのですが、そのとき設計をお願いしたのが坂倉建築研究所であり、昨年豊洲で開催された特別展に参加し、校友の先輩との交流をさせていただいたことがきっかけでした。是非多くの皆さまの芝浦建築会へのご参加をお待ちしています。

さいごに、皆さんは鉄道省初代建築課長の久野節（くの・みさお）さんをご存知ですか？　明治から昭和にかけて活躍され、日本の鉄道駅の近代化を推進された建築家です。現存する駅舎としては、南海なんば駅、近鉄宇治山田駅、そして東武の浅草駅であり、東京スカイツリー開業にあわせて昭和６年建設当時の姿に復原しました。2014年には、三井所先生が選考委員として名を連ねる第24回BELCA賞を受賞しています。ぜひ浅草下町を訪れる際には、東武浅草駅ビルをご覧になってみてください。

これからも、駅という集客装置を直接いじれるディベロッパーとして醍醐味を味わっていければと思っています。

【東武鉄道株式会社】

落ちこぼれ学生が何とか60歳過ぎまで建築の世界で生きてこれました。　(笑)



村島 充裕（むらしま みつひろ）
1988年 工学部建築学科卒

芝浦工業大学工学部建築学科を1988年に卒業（１年留年）しました。私の建築への原点は、中学・高校時代に神奈川県で内装工事会社を営む叔父のもとで手伝ったアルバイトにあります。住宅の建築現場の魅力に強く惹かれ、高校２年の夏に「建築学科へ行こう」と決意しました。しかし、現役・浪人時代ともに遊び癖が抜けず何とか1983年に母校へと入学させていただきました。

大学に入っても不真面目な学生生活は続き、軽音楽部やバイク、そして飲食店でのアルバイトに明け暮れる毎日でした。転機が訪れたのは大学４年の夏です。原点である「住宅の現場」への想いが蘇り、千葉ミサワホーム株式会社（現ミサワホーム）から内定をいただきました。ところが、卒業直前に出かけたアメリカ一周旅行から帰国すると、母親から「留年したよ」との一言。頭が真っ白になり内定辞退を申し出ましたが、当時の社長から「学校に行く日に休みを取ればいい」と温かい言葉をいただき、前代未聞の「社会人と学生の二足のわらじ」として私のキャリアはスタートしたのです。

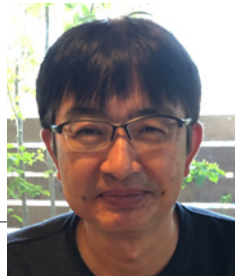
最初の確認申請業務では、学生時代に勉強しなかった建築法規に大変苦労しましたが、バブルの真っただ中、３年間で1000件以上の申請に触れたことは大きな財産となりました。無事に大学を卒業後、26歳で一級建築士を取得。それから現場監督として２年間で60棟以上を引き渡し、多くの職人さんから現場の楽しさを学びました。その後、設計、施工図作成、過酷な営業設計を経験し、体力・気力の限界から辞表を提出しかけた時、民間確認申請の先駆けである日本ERI株式会社への出向の話が舞い込みました。

出向期間中は現場検査を中心に少し心にゆとりができ、宅建や土地家屋調査士などの資格を取得できました。2004年に日本ERIへ転籍後は、千葉支店の検査員から始まり、各支店の評価部長、支店長を歴任させて頂きました。60歳を機に既存建物業務を希望し、ERIソリューションの執行役員として営業本部長、事業推進部長を務めました。そして意を決して2026年11月同社を退社し設計事務所・土地家屋調査士事務所を開設して独立するという、第三の人生へ踏み出します。

振り返れば、大学時代はほとんど勉強しない学生でしたが、多くの先輩や卒業生との素晴らしいご縁に恵まれ、40年間一線で歩んでこられました。改めて「芝浦工業大学の卒業生で本当に良かった」と心から感謝しております。今後は自身の仕事に邁進しつつ、母校の発展のために微力ながら恩返しをさせて頂きたいと思っております。

【（株）評価審査機構一級建築士事務所・土地家屋調査士事務所】

建設業とともに歩んだ三十余年



杉野　泰雄（すぎの やすお）
1993年 工学部建築工学科卒

私は芝浦工業大学でRC構造を学び、卒業後は大手ゼネコンに入社しました。以来三十年以上にわたり建設業に携わっていますが、社会人になって最初の二十数年間は施工管理一筋でした。工事の最盛期には週に何日も現場に泊まり込み、休日も現場のことが頭から離れない生活でした。当時はとにかく目の前の仕事をやり遂げることに必死で、振り返る余裕もなく走り続けていたように思います。建設現場では多くの経験をさせていただきました。超高層建築や大型施設など、規模も用途も異なるさまざまな建物の建設に携わる中で、色々な人と出会い、また完成までの過程を仲間と苦労してきた経験は、私にとって大きな財産となっています。

四十五歳を過ぎ、子育てがひと段落した頃から、ようやく心と体に少し余裕が生まれ、それまで見えていなかった周囲の景色や人とのつながりにも目が向くようになり、仕事に対する考え方も変わってきました。私生活では、子供たちも成長し、息子は理系の分野へ進みましたが、建設業を選ぶことはありませんでした。少し寂しい気持ちもありましたが、一方で自分自身が経験した多忙な時代を思い返すと、それもまた良かったのかもしれないと思っています。

現在は外装分野を中心とした調達部門に所属し、専門工事の調達業務に携わっています。現場で培った経験を活かしながら、サプライヤーとの信頼関係を築き、より良い調達のあり方を模索する毎日です。

近年は建設業界を取り巻く環境が大きく変化しています。資材価格の高騰や人手不足への対応に加え、DXやAIの活用が急速に進み、これまでの常識が大きく変わろうとしています。私自身も新しい技術や考え方を学びながら、業務の効率化や品質向上に取り組んでいます。特にデータ分析や生成AIの活用は、今後の建設業界において大きな可能性を持っていると感じています。

芝浦で学んだ建築の知識と、社会に出てから数多くの方々に教えていただいた経験を糧に、これからも変化を恐れず学び続けたいと思います。

【株式会社大林組】

住まいを通して世界を見る



福田　朋宏（ふくだ ともひろ）
1996年 工学部建築学科卒
1998年 大学院理工学研究科建設工学専攻修了

芝浦工業大学大学院に在学していた頃、私はスイスのVico Morcoteにあったる SCI-Arc（Southern California Institute of Architecture）のプログラムに、1か月間参加しました。現地では、住宅や街並み、そこに根づく文化に触れながら、設計課題に取り組みました。

海外の講師とエスキースを重ね、最後に講評を受ける経験は、当時の私にとって大きな刺激でした。特に印象に残っているのは、講師陣の中に、イタリア近代建築の巨匠ジョゼッペ・テラーニの親族であり、ご自身も建築設計に携わる方がいらっしゃったことです。私の課題については意見が分かれましたが、その方には評価していただきました。嬉しかった一方で、同じ提案でも、見る人の背景や価値観によって受け止め方が異なることを実感しました。

建築とはひとつの正解を探すものではなく、場所や文化、人々の暮らし方を読み解きながら考えていくものです。気候や生活習慣、街との関係、住まいへの価値観は、国や地域によって異なります。その違いに戸惑いながらも、自分の考えを図面や模型、言葉で伝えようとした1か月は、今でも忘れられません。

現在は、組織設計事務所で主に集合住宅の設計に携わっています。近年はフィリピン、ベトナム、台湾、インドなど、海外の住宅プロジェクトも増えました。文化や生活習慣、気候、法制度が異なる中、日本で培った経験を土台に、その土地の暮らしを読み解き、新たな視点を提案しています。受け入れられることも、否定されることもありますが、「同じ提案でも受け止め方は異なる」という実感は今も変わりません。多様な価値観に向き合い、日々住まいを考え続けています。

芝浦で建築を学んだ方々が、さまざまな場所で、それぞれの建築に向き合っている。その広がりを心強く感じます。私の経験も、この「卒業生の輪」の一つとして、新たなつながりを生むきっかけになれば幸いです。



インド・グルグラムの路上にて

【株式会社日建設計】

はじっこが好き。



高杉　諭吏（たかすぎ さとり）
1996年 建築学科卒（金丸研究室）

大体はじっこが好きだ。五目ラーメンにナルトや伊達巻のはじっこが入っているととても得した気分になる。空いた列車のロングシートならまずはじっこに（これは殆どの人がそうするか）。大きな会議室でも大概隅の方に陣取る。堂々と真ん中に居座るのはどうも具合が悪い。

大学のゼミと卒論では建築史研究室を選んだ。建築の王道は意匠設計、次に構造・施工・設備、どう考えても建築史ははじっこのはじっこである。ここでのうのうと過ごした輩は、次の将来の食い扶持をろくに考えもしないから、次なるはじっこにかじりつく。考古学の研究所ではついに建築屋ギリギリ、建材の商社ではかろうじて建築の現場もあったが、やっていることは伝票の計算や与信管理である（ここで大いに建築以外の学びはあったが）。

流れ流れて今この文章を、日本のはじっこ岩手の、その隅の大船渡という奥地で書いている。東日本大震災の津波と平成以降国内最大の林野火災に見舞われはしたが、平時は穏やかな青海と緑濃い深山を抱えた、とても豊かなはじっこである。ここでは、建築の審査や検査というような仕事に就いているが、この仕事も誠にはじっこである。建築という業態が、御施主様を頂点に、設計者、施工者、流通といて、この仕事は基準法という一分野を担っているだけの一職人に過ぎないのだと、入ったばかりの頃先輩に言われた。実にその通りだと思っている。そういう意味でまったく王道ではない端の方ばかりを歩んでいる。

近年は人生の残り時間を勘案して、昔かじった研究室の経験を基に、古建築（たまに現代のも）を訪ね歩きSNSにアーカイブするのを生涯の趣味にしようと取り組んでいる。建築士の分野もはじっこ界隈なりに進歩し、かつては移築博物館で静態保存するばかりだったが、活用を前提とした保存へとシフトチェンジしている。登録文化財やヘリテージマネージャといった制度がこれを支えている。これから空き家問題やストック活用といったキーワードが益々重要視されていくであろう時代に、建築を見に行くというはじっこのお楽しみを続けていこうと目論んでいる。（Facebook、Instagram　＃建築を見に行こう）

【岩手県庁】

建築施工管理として歩んだ30年、そしてこれから



西郷　一夫（さいごう かずお）
1994年 工学部建築工学科卒

私は卒業後、清水建設株式会社に入社し、北海道支店、震災応援で赴任した神戸支店を経て東京支店で勤務し、以来30年以上にわたり建築の施工管理に携わってまいりました。

大学時代は柔道部に所属し、大和田義正先生の研究室で「コンファインドコンクリート」をテーマに卒業研究に取り組みました。

研究に取り組んだ日々は、30年以上経った今でもよく覚えています。また、柔道部で仲間と切磋琢磨する中で、責任を持って物事に取り組む姿勢や、最後まで努力することの大切さを学びました。大学で得た専門知識と、仲間と力を合わせて一つのものをつくる経験は、その後の建築の仕事に取り組む上での原点となっています。

施工管理では、品質・安全・工程・コストを管理し、発注者に満足していただける建物をつくることを大切にしてきました。施工者として、設計者が描いた建築への想いを受け止め、それを現場の技術と力で一つの形にしていく。その過程で、設計者と施工者が互いの知恵を出し合い、より良い建物をつくり上げていくことに、建築の大きな魅力を感じています。

これまで、病院、老人保健施設、地方テレビ局、再開発工事、研修所、修道院、大学寮、大学校舎など、さまざまな建築工事に携わってきました。坂茂氏が設計に関わった成蹊大学情報図書館、隈研吾氏が設計に関わった鶴川女子短期大学（現・フェリシアこども短期大学）、芦原義信氏の武蔵野美術大学４号館保存改修工事など、著名な建築家の作品に携われたことも貴重な経験です。近年では歌舞伎町タワー、現在は「HIBIYA CROSS PARK（日比谷クロスパーク）」の一角を構成する内幸町一丁目南地区の建設現場で施工管理を担当しています。

建築は、職人さんをはじめ多くの人の技術、知恵、情熱が集まって生まれる「大きな芸術作品」だと考えています。若い頃には、より良い建物をつくるため、設計者の方々と深夜まで議論を重ねました。苦労を共にした方々とは、今でも会えば当時の思い出話に花が咲きます。仕事を通じて築いた信頼関係は、私にとって大きな財産です。

現在は、大学で柔道部監督を務めるとともに、芝浦工業大学校友会の常任幹事議長として、また芝浦建築会の活動にも携わっています。これからも、建築を通じて培った経験を生かし、卒業生、先生方、学生の皆さんとのつながりを大切にしながら、交流と学びを深め、母校・芝浦工業大学と建築の世界に貢献していきたいと考えております。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【清水建設株式会社】

建築を離れたけれど、建築はずっとそばにあります。



米嶋　貢（よねしま みつぐ）
1985年 建築学科卒

建築学科を卒業するものが、就職活動の最初の人事との面談で「建築はやめられますか」と問われ、「はい」と即答した瞬間に進路が大きく変わりました。
学生時代は授業や自宅での勉強よりも、夜のアルバイトに多くの時間を費やしていたこともあり、建築・設計の道を深めるより、新しい環境に挑戦したい気持ちが強かったのだと思います。

入社後、海外留学制度に選抜され米国で経営を学んだ経験は、その後のキャリアの大きな基盤となりました。
帰国後はロンドン本社のインターコンチネンタルホテルグループで欧州の企画業務に携わり、建築とは遠い世界で働くことになりましたが、ホテルの大規模改装や新規開発プロジェクトでは、建築で学んだ構造的思考や空間理解が自然と役立ちました。

その後、ゲーム、オンライン事業、通信など異業種を経験し、2003年にワコムへ入社。営業・オペレーション統括の責任者としてデジタルペンの普及に取り組み、建築パースのデジタル化支援にも関わりました。
同学年のシステム理工学部の澤田先生に製品導入いただいたことは、学校と仕事がつながった象徴的な出来事でした。
2024年に定年退職し、現在は株式投資やFXの取引きを中心に生計を立てています。
数字を眺める毎日は理系出身として飽きることがありませんが、家にいる時間が増え、外の世界とのつながりを求めて芝浦建築会に参加し、現在は事務局員として活動しています。

建築・設計の現場で働いた経験はありません。しかし「空間をデザインする」「アイデアを描きとめる」という建築の本質は、ホテル開発やIT企業での企画･提案の仕事にも通じるものでした。建築で培った思考は、進路を変えた私のキャリアの中でずっと息づき、今も自分の中に確かに残っています。

【株式会社ワコム （日本・アジア営業／マーケティング統括、 VP）】

あたらしいもの、ふるいもの



服部　敦史（はっとり あつし）
2005年 建築工学科卒（赤堀研究室）
2007年 大学院建設工学専攻修了
（赤堀研究室）

私は大学院を修了後、アトリエ系の設計事務所で働いています。学生時代、現在も活躍する著名な建築家の作品から多くの刺激を受けるなかで、前川國男氏の建築に出会いました。時代を超えて美しく、周辺環境に溶け込み、人々に愛されている建築に深く感銘を受けたことが、現在の設計事務所で働くきっかけとなりました。

最近、私にとって嬉しい出来事がありました。10年前に私が担当した庁舎を訪れた際、当時の行政担当者の方々がそれぞれ昇進されており、年月の流れを実感しました。一方で、外壁のレンガは変わらぬ美しさを保ち、内装も丁寧に使い続けられていました。そのことに感謝の気持ちをお伝えすると､担当者の方から「もちろんです。大切な建物ですから」という言葉をいただきました。その言葉を嬉しく思うと同時に、これからも50年、100年と大切に使い続けてほしいと願いました。

また昨年、1900年代初頭に竣工した旧銀行をコミュニティスペースへと改修し、新たに美術館とカフェを増築した複合施設が完成しました。この計画は、旧銀行の近くで生まれ育ち、子どもの頃の遊び場でもあったこの場所に深い愛着を持つ施主の想いから始まったものです。

100年以上前に建てられた歴史的建造物を保存しながら、新たな建物を増築することは、設計者としても大きな挑戦でした。増築した新しい建物もまた、旧銀行のように、時を重ねるなかで、施主や近隣の方々に永く愛される場所になってほしい。そんな思いを込めて設計しました。

私たちは「持続する建築」を目指しています。歳月を重ねてもなお美しく、快適な室内環境を保ち、環境にも配慮した省エネルギーな建築。そして、新しい建物がやがて古い建物になったときにも、人々が愛着を持ち、大切に使い続けてくれる建築。

そんな建築を、これからもつくり続けたいと考えています。

【大宇根建築設計事務所】

七転び八起き



小堀　文剛（こぼり ふみたけ）
2000年 工学部 建築工学科卒
（三宅理一研究室）

久しぶりに再会した同級生から「お前、卒業出来たのか？」と言われて、「そうか、1年留年したから僕が卒業したことを同級生は知らないのか」ということに気づきました。卒業後は就職できず（内定0）、コンビニでアルバイトを続けていました。その後、ゼネコンに中途入社して都内マンション工事現場の現場監督として社会人デビューとなりました。母親の看取りの介護をきっかけに茨城県の実家へ戻り、母親の死後は地元の工務店へ再就職して木造住宅の設計士として20代を終えました。建設不況と言われた時代に建築をあきらめなかったのは、出会った建築人たちから建築の楽しさを教えてもらったからだと思います。

30代に入る頃に山形県にある東北芸術工科大学大学院へ進学しました。当時、興味を持っていた建築家の竹内昌義氏のもとで建築（リノベーション）を学びたい思いがありました。大学では山形市内に残る蔵を再活用する蔵プロジェクトを主軸に様々な活動に参加してそれらは楽しい思い出です。その反面、課題や研究は全く駄目で、先生からも建築は無理だと言われました。修士2年時に体験入村で訪れた北海道真狩村で空き家となっていた旧社会福祉寮を共同住宅へリノベーションする設計を行いました。その後、村からお声がけをいただき真狩村役場建設課へ再就職しました。無事にリノベーションの工事を終えた後、やはり建築設計をやりたい気持ちが強く、札幌市にある建築設計事務所へ転職しました。デザイナーの仕事を間近に見て毎日高揚感がありスケッチやディテールはほんの少し上達したかなと感じました。ただ、やっぱり自分には建築は無理だと思いました。東日本大震災の後、茨城県の実家へ戻り、国指定史跡水戸徳川家墓所災害復旧事業の専任建築士として3年間従事しました。また、仕事と並行して水戸の市民団体や水戸芸術館現代美術センターのボランティア活動に参加して、水戸市に深く関わることになりました。その後、福島県浪江町建設課へ常駐となり帰還事業のお手伝いや福島県内各市町村の技術支援を行いました。建築士として少し社会貢献もできたし、もうきっぱり建築はあきらめようと思いました。

40代に入る頃に岡山県へ移住しました。知らない遠くの場所へ行きたくて、ただ、賑やかな場所も寂しい場所も嫌だなと消去法で見つけたのが岡山市。工場に勤務して定時出社の定時退社、夢のような生活。岡山後楽園向かいのマンションに住んで、朝夕は園内を散歩して過ごしました。そんな中、前川國男建築の見学や瀬戸内海の島巡りをしていると、思いのほか建築と触れ合う機会があり、建築はやめようと思って移住した岡山県でもう一回、建築をやり直してみようかなという気持ちになりました。岡山市に暮らした期間は3年間で、その後、建築をやり直そうと思っても世の中そう甘くはなく、建築設計に関われそうな仕事を転々とすることくらいしか出来ませんでした。いつもどこかで仕事に物足りなさを感じていました。三宅先生の口癖で「それはもぐりですよ（笑）」という言葉と竹内先生の助言で「建築はジャンプなんて出来ない」という言葉がいつも耳に残っていて、自分は何を学んできたのだろう？という疑問というか後悔というか、心の奥底に引っかかっているような、そんな気持ちでした。

今年で50歳。お盆休みに友人を誘って食事へ行きました。建築設計事務所へ転職したことを伝えると「お前さ、建築やるって言って、何周目？」と呆れられました。過去の経験を振り返ると公共建築や工場建築の改修に長く関わってきました。日々新しい建築が生まれる一方で「今ある建築を長く使いたい・再活用したい」という社会的要望に応えてきた結果と思います。この際、建築の外皮・構造・設備の改修が主な目的となるのですが、付帯工事として発生する内装デザインや空間レイアウトの提案で喜ばれた経験があります。現在勤める会社は公共・大学・研究施設のインフラ改修に強みを持つ設備系の建築設計事務所なので意匠設計者としても企業価値となる強みの部分に特化した設計プロセスが必要になります。エネルギー効率やライフサイクルコスト低減の提案を初めに行うことが大前提です。将来的にはそれを実現する為にはこのような建物形状・窓配置・空間レイアウトが適しているといった環境デザインの提案を付加出来れば良いなと考えています。

【株式会社スペースデザイン一級建築士事務所】

「んー、健康だね。」



堀切　満洋（ほりきり みつひろ）
1990年 工学部建築学科卒

この度、ご依頼をいただき、僭越ながら執筆させていただくこととなりました。

卒業から悠遠36年。その間、株式会社INA新建築研究所に8年間勤務の後、独立いたしました。格好良く言えば「起業」ですが、正確には「半ば破れかぶれで設計事務所を立ち上げた」が正解です。早いもので28年間、現在も「破れかぶれ」が継続中でございます。

果たして本稿の趣旨に合っているのか、甚だ心もとなく恐縮ですが、私事の古い古い昔話をさせてください。

まず本学への入学理由ですが、いたって明快、受験した他のどの大学には、ことごとく合格できなかったから。唯一「まぐれ」で合格したのが本学でした。「まぐれ」で大学受験に受かるものかと皆様お思いでしょうけれど、当時の私を知る高校時代の学友の中には、「大学には『合格』以外に『当選』で入るやつもいるのだな。」と実に的確なことをいう者もおりましたので、間違いないと思います。

そんな調子で入学をいたしましても、本学の高度な授業についていけるはずもなく、生活態度不良・学力不足。つまり学校も行かずバイトに明け暮れて遊び惚け、単位を落としまくった不束な学生でした。そんな学生がなぜ落第もせず卒業できたのか。これはひとえに、心温かい学友の○○や○○といった後方支援によるものでした（○○については若い人にはわからんかも。おおらかな時代でした）。

もちろん先生方にも本当にお世話になりました。

石川先生からは採点しようもないような、あまりにもひどい内容の課題にも寛大で寛容な評価をいただきました。「評価」というよりも「救済」をしていただきました。

三井所先生には、一つの窓を穿つにしても、「人のために」数えきれない役割や存在理由があることを教わりました。
小柳津先生には就職相談時に、「設計の仕事をしたいのですが如何か。」と恐る恐る申しあげたところ、私の成績表をどれどれとご覧になり、「お前、よくもこんなにひどい成績がとれたものだねえ、ガハハ！」と豪快に笑い飛ばしていただきました。それでも最後には「成績が悪くても、将来が不安でも、やりたいことをやりなさい。」と、優しく力強く、背中を押してくださいました。
研究室はみねぎし研究室に在籍いたしました。ここでも大変温情のあるご指導をいただきました。
みねぎし研恒例の、伊東・宇佐美にあった先生の別荘での合宿の場で、設計事務所に就職が決まったことをお伝えしました。先生に金言をいただきたく、「先生、設計者にとって最も大切なことは何でしょうか？」と、果てしなく壮大で、ひどく抽象的かつ、多大に失礼な質問をしました。
そんなどうしようもない質問にも先生はもちろん真剣に答えてくださいました。しばらく黙って考えて、「んー、健康だね。」と、低く唸り、静かに一言、おっしゃいました。
先生、ごめんなさい。いまだから言いますが、前のめりに金言を望んだアホな若い身空は…正直、ずっこけました。「そこーっ！？」って。
でもね、先生。いつの頃からか、いただいたお言葉の意味は痛いほど身に染みています。金言中の金言でした。
諸先輩、ご同輩には分かる方も多いと思いますが、年を重ねるごとに、病気をしたりけがをしたり、精神的に疲れることもあったり。まだまだお若いであろう後進の方々も、お身体にだけはお気を付けくださいね。
ご存じの方もいると思いますが、当時、みねぎし先生は何度か大病を乗り越え、また、想像を絶するような悲しい出来事を近しい時期の経験としてお持ちでした。そんな中でもアホな学生に真剣に向き合ってくださり、感謝の念に堪えないような金言をいただきました。
昔々、生活態度不良・学力不足の不肖の学生が、社会に打って出る前に芝浦工業大学で大切なことを教わりました。
寛大に、寛容に、優しく力強く、自分のためだけでなく、人を幸せにするデザインが最も大事であること。
そして最も大切なのは…「んー、健康だね。」
先生方、ご学友方々、ありがとうございました。まぐれ当選だったけど芝浦でよかった（笑）。

【株式会社Ｅ．Ｄ．Ｌ．一級建築士事務所】

イベント報告

●相田先生を囲む会（相田研究室OB会；通称@会）開催報告

6月29日（土）、相田先生を囲む会に27名の方々にお集まりいただき、先生の89歳の誕生日をお祝いしました。
あいにく台風となりましたが、お集まりになった皆様との親睦を深めることができました。
来年、先生は90歳（卒寿）の節目となります。先生のお話によると三十路（ミゾジ）ならぬ九十路（クソジ爺）とのことですが、ぜひ建築界の最年長記録更新（ニーマイヤーの104歳が最高か）を目指して頂きたいと願っております。



●「坂倉建築研究所展」開催報告

昨年１２月１２日（金）と１３日（土）に豊洲校舎「有元士郎記念校友会交流プラザ」にて本会主催にて坂倉準三から受け継がれる精神『坂倉建築研究所展』を開催し、展覧会場には大学職員、芝浦建築会の会員、現役の学生、近所の住民まで来場して頂き交流プラザは賑わいました。坂倉事務所には大木所長を含め９名の本大学卒各々が担当物件をまとめ展示し、１３日（土）のシンポジウムでは担当した一人々々が作品の説明や坂倉建築研究所での仕事の仕方などを語り、参加者からの質疑もあり大いに盛り上がりました。またシンポジウム後の懇親会には坂倉建築研究所の当大学卒業生や同僚の方、学生、芝浦建築会会員が参加し、楽しく語らい交流することができました。改めて坂倉建築研究所の皆様の協力に感謝申しあげます。　　芝浦建築会会長　切刀強



シンポジウムと展示



展示



展示準備

●芝浦工業大学第5回建築家展 「芝浦11イレブン建築家展」開催報告

本学では2022年度より、世界を代表する建築家の展覧会を開催しており、5回目となる今回は、第一線で活躍する本学の卒業生、建築学部の教員、非常勤講師ら10名の建築家による「芝浦11建築家展」を開催しました。本学はこれまで、社会の第一線で活躍する数多くの建築家を育んでまいりました。今回出展した10名も、それぞれの場所で建築という営みに真摯に向き合い続けています。同じ学び舎で学び、また教える建築家たちの仕事を一堂にご覧いただける本展では、完成した作品に加え、そこに込めた思いや作品の完成に至るまでの試行錯誤の過程を、図面や模型、写真を通して皆様に体感いただきました。





教員紹介

建築空間創りと室内空気質



金　勲（きむ ふん）
建築学部建築学科　教授

2026年4月より建築学部に着任いたしました金勲（キムフン）と申します。今最も元気のある大学と名だたる芝浦工業大学で教育・研究ができることを大変嬉しく思っております。やっと前期の授業が終わったところですが、学生は元気で活気があり吸収力も高いので、やはり教育は楽しいものだと思います。

私は、韓国の国立釜山大学を卒業し早稲田大学で学位取得した後、同学で学科助手・次席研究員兼研究院講師を経て、厚生労働省国立保健医療科学院（旧、国立公衆衛生院）で13年間、公務員の教育研修と研究をやって参りました。専門は建築環境設備と室内空気環境で、空気汚染とシックハウス、化学分析、建材性能試験、換気、空調と建築物衛生、感染症対策や環境アレルギーなどの研究を行っております。

空気質というと、高度成長期の公害や悪臭問題、90年代のシックハウス、そして昨今の$PM_{2.5}$や香害、感染症に至るまでネガティブなイメージが強く、有害でないといったゼロを目指すことが一大目標になってきました。

しかしながら、このような悪くないという消極的な姿勢の建築空間からは魅力を感じにくく、どのようにしてより快適で魅力的な空間にするかというポジティブな姿勢とそれによる建築の付加価値、そこに学問と研究の楽しさがあると思います。

例えば、天然木材のように建材固有の香りで空間のイメージを変化させる・生活臭をマスキングする、バイオフィリックの植栽を空気質的に利用するなど、工夫次第で活用範囲は広がります。

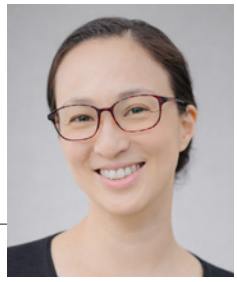
時代はエコやサステナブル、エシカル、ESG、SDGsなど未来志向的でいかにも価値のありそうな言葉に変わっており、省エネルギーは創エネルギー、リサイクルもいつの間にかアップサイクルやリマニュファクチャリングといった、よりポジティブで付加価値が感じられるようイメージチェンジしています。

これからは学生と共に、より快適で魅力的な建築空間の要素としてポジティブな空気質を学び、研究し、実践していく所存です。



第5回通常総会記念講演

着任のご挨拶



永井　佑季（ながい ゆうき）
建築学部建築学科准教授

2026年4月より、芝浦工業大学建築学部に着任いたしました永井佑季と申します。歴史と伝統のある本学で教育・研究に携わる機会をいただき、大変嬉しく、光栄に思っております。

私の専門は、「空間構造・構造デザイン」です。空間構造とは、スタジアムやアリーナなどの大空間を支える構造を主な対象とする分野です。柱のない大きな空間を、いかに合理的かつ美しく覆うか。力の流れや材料の特性、形態そのものを生かしながら建築を成立させるところに、この分野の大きな魅力を感じています。これまで培われてきた空間構造の技術を学び、発展させるとともに、新しい材料や技術も取り入れながら、次世代の空間構造の可能性を探究していきたいと考えています。

大学着任前は、佐々木睦朗構造計画研究所に14年間勤務し、大小、国内外さまざまな建築の構造設計に携わってきました。建築家や施工者をはじめ、多くの方々と協働して一つの建築を実現する過程で、構造設計には、安全性や合理性の追求に加え、「構造デザイン」を通じて建築空間を生み出す役割があることを実感してまいりました。

大学では、こうした実務の現場で構造デザインに向き合ってきた経験を、学生たちに伝えていきたいと思っています。同時に、学生たちとともに自由な発想で構造の可能性を考え、これからの建築や社会につながる新しい空間構造・構造デザインを生み出していければと考えています。

卒業生の皆様とのつながりも大切にしながら、教育・研究に取り組んで参りたいと思います。ご指導、ご鞭 を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶



テイ　チュウ（てい ちゅう）
建築学部建築学科　特任講師

2026年4月、建築学部建築学科に特任講師として着任し、数学科目を担当しておりますテイ　チュウと申します。この場をお借りして、芝浦建築会の皆様に着任のご挨拶を申し上げます。建築学科で数学教育に携われることをありがたく思い、学生の皆さんや先生方との対話を大切にしながら、授業に取り組んでまいります。

私の専門はトポロジーです。トポロジーでは、図形の長さや角度よりも、各部分がどのようにつながっているか、形を連続的に変えても何が保たれるのかに目を向けます。一見異なる図形のなかに共通する構造を見いだし、変化のなかでなお残るものを捉えるところに、この分野の面白さがあります。こうした問い方は、私が数学を学び、教えるうえでも大切にしてきたものです。

数学では、直観が思考を前に進める大切な手掛かりになります。しかし、そこから得た見通しが本当に正しいのか、どのような条件のもとで成り立つのかは、丁寧に確かめなければなりません。検証とは、直観を退けることではなく、そこに含まれる考えを言葉にし、他者もたどれる筋道へと整えることだと思います。その過程で、前提を確認し、ときには反例を探します。行き詰まったときには、解き方だけでなく、問いの立て方そのものを見直します。

授業でも、正解だけでなく、そこに至る思考の過程を大切にしたいと考えています。言葉や図を使って人に説明すると、自分の理解の曖昧さに気づくことがあります。ほかの人の考えに触れ、それまで見えていなかった前提や別の見方に気づくこともあります。一人で考える時間と、互いの考えを確かめ合う時間を通して、自分の考えを組み立て直してほしいと思います。

建築については、私も学ぶ立場です。学生の皆さんや先生方が、空間や社会をどのように捉え、どのような問いに向き合っているのかを、日々の対話を通して学んでいきたいと思います。専門が異なれば、見えるものも、見落としやすいものも異なります。その違いが、互いの前提を問い直し、考えを深めるきっかけになればと願っています。

卒業後、授業で扱った公式や解法は忘れてしまうかもしれません。それでも、複雑な問題に出会ったとき、条件を整理し、「本当にそうだろうか」と立ち止まって考える習慣が残っていれば、数学を学んだ経験はその後も生きてくるのだと思います。学生の皆さん、先生方、そして芝浦建築会の皆様との交流を大切にし、私自身も学び続けてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

【芝浦工業大学 SIT総合研究所 客員理事長】

退職のご挨拶



古賀　純子（こが じゅんこ）
元建築学部建築学科教授

2018年4月に教授として着任し、2026年3月までの8年間、大変お世話になりました。前職では研究機関に勤務しており、教員の経験はゼロでしたので、学生指導に苦戦した面もありましたが、同僚の先生方、学生の皆さんに支えていただきながら8年間を過ごしてまいりました。

8年の間には、新型コロナウイルスの大流行、本部棟への引越し、AIの台頭など、大きな出来事がありました。新型コロナウイルスの流行時には大学が2か月ほど入構禁止となり、講義も休止されました。その後はオンラインでの体制を他の先生方とともに急ピッチで整え、自宅で息子や飼い猫のちょっかいに耐えながら講義や会議を行ったことは、今ではよい思い出です。その後、AIが急速に普及しはじめ、講義で一言も発していない単語が並び、文面も内容もそっくりなレポートが学生たちから提出された時には衝撃を受けました。思考能力を鍛えるべき学生時代をWith AI時代にどう過ごすのか、学生たちには難問が突きつけられています。同時に、教員側にも試行錯誤が求められています。今後も悩みながら模索していくことになりそうです。新型コロナウイルスの大流行とAIの台頭という2つの出来事は、社会においても大きなものであったと思います。

定年まで20年勤務するつもりで芝浦工業大学に着任しました

が、悩んだ末に、この度退職し、母校である東京科学大学（旧東京工業大学）に移籍しました。芝浦工業大学でご厚情をいただいた先生方、学生の皆さんには、心より感謝申し上げます。研究室からは延べ66人の学生が巣立ちました。卒業生の皆さんとは、今後は建築業界を支える仲間として交流できればと思っています。

末筆ながら、芝浦工業大学建築学部のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

【東京科学大学 環境・社会理工学院 教授】

退職のご挨拶



中島　直道（なかじま なおみち）
元建築学部建築学科特任講師

2024年度から2年間、芝浦工業大学建築学部建築学科特任講師としてお世話になりました。数学系科目が主な担当で、1年生向けの微分積分学や統計学、また2年生以上に向けた微分方程式の授業を担当いたしました。

学位を取得し1年間ポスドクを経験したのち、初の教員職を芝浦工業大学で経験させていただきました。大学のカルチャーはおろか、教員としての振る舞いすら右も左もわからない中、ご迷惑をおかけしながら少しでも貢献できていましたらこの上なく幸せです。

手探り状態で行っていた授業は、ベテランの先生方の洗練されたものと比べればやはり学生にとって理解しやすいものではなかったかもしれません。それでも､学生たちは「中島先生」と慕ってくれて、幾度となく励まされました。建築学部の学生にとって専門科目でない数学の授業は、必ずしも熱意を持って取り組む必要のないものだったかもしれません。それでも私の授業に出席しているからこそ何か持って帰ってもらいたいと思い、建築学や私の専門分野の一つであるAIとの関連の中で数学が社会に接続する様を実感してもらえるよう授業準備をしておりました。授業後に熱心に質問してくれる学生の姿を見るたび、ごくわずかであっても私との出会いが学生たちのこれからに影響を与えるものになっていれば嬉しいと感じていました。そして私にとっても、建築学というこれまでの人生で学ぶことのなかった学問に触れるきっかけになったこの2年間は間違いなく忘れることのできない時間でした。

今年度からは立教大学理学部数学科に異動しました。今度は数学科の学生に向けて建築学に触れた経験を生かしながら、これまでの自分にはできなかった方法で教育に取り組んでいく所存です。

変化の速い時代の中で、様式は変わっても、建築学の普遍性は依然として発揮されることと思います。そのような社会を支える建築文化の担い手であります皆さまのますますのご活躍を心よりお祈りしております。2年間ありがとうございました。

【立教大学理学部数学科】

学科報告

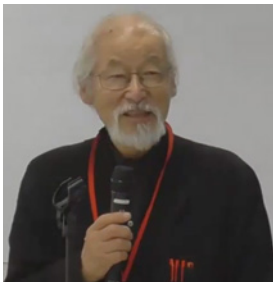
2025年度の学科の近況と学生の活躍



秋元　孝之（あきもと たかし）
建築学部長　建築学科教授

2025年3月、建築学部建築学科の学部生252名と理工学研究科建築学専攻の大学院生145名が、巣立っていきました。卒業式は、2026年3月17日に東京国際フォーラムホールAで実施され、建築学科の学部卒業生と大学院修了生はその後、豊洲キャンパスの大講義室に戻り、学位記授与式に参列しました。この式では、卒業研究、学業成績の優秀者の表彰も行いました。芝浦建築会の辺刀強会長、百瀬和弘副会長、松寿章幹事にもご出席頂き、祝辞を頂戴すると共に、芝浦建築会賞を授与頂きました。2025年度の卒業生の学業成績優秀者、卒業研究優秀各賞、修士論文優秀各賞は表1の通りです。

芝浦の建築系学生向けの設計コンペであるデザインチャンピオンシップでは東京工業大学名誉教授であり、環境デザイン研究所の代表取締役会長でもある建築家仙田満先生を審査員にお迎えし、2025年10月30日に実施されました。仙田先生のお声がけにより、構造設計の専門家である金箱温春先生にもゲスト審査員として参加して頂きくこともできました。今回のテーマはスタジアムでしたが、多くの学生の提案があり、先生方に熱心にご指導頂きました。コンペ終了後には、芝浦建築会にご後援頂き、懇親会を実施しました。ありがとうございました。芝浦建築会からは辺刀会長、川口副会長、徳田事務局長にも参加いただき、教員、参加学生の交流を深めることができ、有意義な会となりました。



デザインチャンピオンシップで講演する仙田満先生

卒業生が関わるイベントとしては、業界研究セミナーを2025年6月13日に実施しました。総勢6名の卒業生に協力頂き、現役学生向けの講演を行って頂きました。講演者は表2の通りです。様々な建築分野で活躍する卒業生から、自身の職種について紹介いただくのとともに、現役学生に向けてのメッセージを頂きました。こうした取り組みにより、現役学生と卒業生の会の交流が深まればと思います。卒業生の皆さまには、こうした会への参加、講演などをお願いすることもあるかと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

2025年度末で隈澤文俊教授、古賀純子教授、浅田勇人教授、中島直道特任講師の4名の教員が退職されました。建築学科での長年のご尽力に感謝申し上げます。また、2026年度からは、金勲教授、永井佑季准教授、テイチュウ特任講師を新たな教員としてお迎えしています。新しいメンバーと共に教育、研究に邁進して参りますので、ご支援の程よろしくお願い致します。

表 1　各賞受賞者名簿

	賞 名	氏 名	
学業成績	学業成績最優秀賞・総代	田中 美陽	
	学業成績優秀賞・有元賞（学籍番号順）	公文 千尋	
		中澤 ひなた	
		内田 結	
	学業成績優秀賞（学籍番号順）	良本 優太	東條 康資
		村上 礼門	根岸 つぐみ
		森 咲月	鎗田 侑
		大石 祐実	土田 楓奈
		大城 翔	井ノ川 大

	賞 名	氏 名	卒業研究題目
卒業設計	卒業設計最優秀賞・三浦元秀記念賞	片岡 洸貴	横浜 KOYASU RIVERPORT ー旧ボートハウス棟と船舶による水際線の設計ー
	卒業設計優秀賞（学籍番号順）	中林 杏子	縞が風景になる時 産業・暮らし・文化を再編する建築実践
		村上 礼門	大地の仕舞いー瀬戸民間鉱山最期の30年が掘り出す産業の終わりのデザインと遺構の保存
		森 咲月	改・非場所
		鈴木 飛拓	名古屋開城ー名古屋城城郭を対象とした封建的都市構造の民主化の試みー
		鎗田 侑	故郷の歩き方 ー彼方の日常から導く、これからの里山循環上の建築群ー
		岩本 尚倖	多磨全生園保存公園
		安本 洸志朗	町内に跨る地域文化拠点ー京都中心部における暮らしと文化の結節点ー
	卒業設計優秀賞・ AP コース卒業設計賞	濱口 寛太	変形・分散する「海の家」ー片瀬東浜海岸における通年利用型可変建築の提案ー
	卒業設計奨励賞（学籍番号順）	髙橋 安梨	古書のゆくえ -神保町の知を繋ぐー時的保管施設の提案ー
		荒井 美有	周縁 ー事足りた都市に介在する池袋モンパルナスー
		古川 希	ともいきの宇 ー鍬からはじまる空間耕築ー
		亀井 恵勇	かみあつまいー地域縮退に伴う神社合祀の新しいかたちー
		根岸 つぐみ	気配の辿路（たどろ） ー他者との相互関係の再考による発達障害者の社会移行環境ー
		平田　千尋	町屋の暮らし再構築 ー住民は歩み、助け合い、廻るー

	賞 名	氏 名	卒業研究題目
卒業論文	卒業論文優秀賞・APコース卒業論文賞	井垣 朝陽	コーヒー農耕社会における居住空間と生業の相互関係　ラオス・パクソン郡48村の親族集住に着目して
	卒業論文優秀賞（学籍番号順）	水田 怜那	高齢者の生活行動からみた15分都市の実態と実質的徒歩圏の可視化 ー東久留米市を対象としてー
		茂呂 天音	病院建築におけるウェイファインディングデザインの実態と効果
		市毛 大翔	無垢材家具の生産におけるデジタルファブリケーションの活用に関する研究ーCNCルーターを用いた仕口の制作を通した考察v
		石橋 和樹	既存集合住宅の断熱性能改善に向けた改修効果の定量的評価に関する研究
		大石 祐実	ロッキング柱を付与した木造住宅の倒壊抑制効果に関する研究ー倒壊解析と実験結果の比較検討ー
		藤本 航揮	震災遺構におけるデジタルアーカイブと伝承に関する研究 ー石巻市大川小学校を対象としてー
		田中 美陽	実環境条件を踏まえた鉄筋コンクリート部材の耐久性評価手法の検討ー鉄筋腐食環境の分析と機械学習を用いた内部相対湿度の予測ー
		東條 康資	同潤会アパートの公共ストックの継承に関する研究ー住利アパートの建て替えに着目してー
		江口 稀	BIM-BOMデータを活用した建設WBS・クリティカルパスの半自動生成に関する研究
		栗原 亮	部分高強度化鉄筋を用いたヒンジリロケーションRC造ト形柱梁接合部における柱梁曲げ強度比の影響に関する比較検討
		諏訪 桃子	将来気象下における住宅の全館空調に関する研究　ー実験室実験による温熱環境・エネルギー評価ー
		岡本 紘希	人間中心型スマートビル実現に向けた設計評価手法の提案ーAIマルチエージェントによる人流シミュレーションの構築ー
		木下 剛	内壁左官材のカビ抵抗性能に関する影響の検証
		長澤 ゆり子	大規模複合建築物の非オフィスエリアの省エネルギーに関する研究ーレストランエリアにおける空調機制御の効果検証ー
		市川 怜那	萩まちじゅう博物館におけるキーパーソンの役割とネットワーク形成からみる都市遺産継承の仕組み
		松井 寛	寺社境内全域における「にぎわい」の研究ー江戸名所図会を用いた人数分析を通してー
		翁長 良也	オイルダンパーを用いた小型模型の振動実験による減衰特性の研究
		足立 大二	リアルな景観シミュレーションとWebVRを組み合わせたまちづくりツールが議論促進に与える効果ー住民と専門家の垣根を越えた共通視点を目指してー
		藤山 一輝	木造軸組住宅の現状に関する研究ー多雪区域における新基準への適合性に関する実態調査ー
		淺沼 亮	超高層建物の地震応答に関する研究
		長田 怜透	夜間就寝時のトイレ利用に適した照明配置

	賞 名	氏 名	卒業研究題目
イオン・ミンク建築・都市大学賞	最優秀賞・First Prize	荒井 美有	周縁ー事足りた都市に介在する池袋モンパルナスー
	2等・Second Prize	高橋 瑞歩	マチ色揺蕩う棲み処ーマチ中と混ざり、アパシーを解きほぐす学生寮ー
	3等・Third Prize	小林 未怜	複装の境 ーヨコハマの演人たちのためのネオ・マニエリスムー
	佳作・Mention	片岡 洸貴	横浜 KOYASU RIVERPORTー旧ボートハウス棟と船舶による水際線の設計ー
		内田 竜太朗*	「祈」　*環境システム学科

	賞 名	氏 名	修士論文題目
建築学専攻	総代	綿引 陸	都市のカーボンニュートラル化における地域エネルギーシステムの貢献に関する研究
	有元賞（学籍番号順）	安東 和奏	空調熱源システムのオペレータ支援型最適運転システム開発に関する研究 ー市場価格連動型電気料金を指標とした省CO_2運転支援の可能性の検討ー
		小島 瑚子	仮想デジタルツインを用いた設計手法の提案 -設計段階におけるスマートビルシミュレーションに関するアーキテクチャの考察ー
		奈須 遥香	戦時経験が形成した戦後日本モダニズムの「出口」 ー戦間期から戦後にかけての建築家8名の思想と作品分析ー
	専攻賞（学籍番号順）	山本 紗葵	中大規模木造普及に向けた比較分析手法の提案 ーLCA評価による環境評価と建築性能評価についてー
		古屋 悠里	都市開発圧力下における市場コミュニティの存続システム
		菊地 瑛人	バンコク・クロントイ市場を事例として
		鈴木 涼斗	津波避難時における環境認知に基づく選択経路に関する研究
		笠岡 諒平	エスカレーター論ー建築設計における映像体験としての移動空間の有効性ー
		山﨑 丈	逆算的日影設計論ーシャドウスケープによる都市環境の再考ー
		山口 直歩	コアンダ効果を利用したライン型吹出口に関する研究 ー実験室測定における吹出口の評価及び剥離距離推定式の構築ー
		上村 遥	ベトナム人材の国際移動における日本の位置付けに関する研究
		藤澤 悠介	母子生活支援施設が子どもの放課後の遊び仲間・遊び場所に与える影響に関する研究ー東京都内母子生活支援施設を対象としてー

	賞 名	氏 名
芝浦建築会	芝浦建築会賞	鎗田 侑
		髙橋 安梨
		大城 翔

表 2　業界研究セミナーで講演頂いた卒業生

2025年度新規希望：まちづくり分野	坂巻 花奈	住友林業>リノベる（リノベーション）>地方移住	山代研究室（2017年卒業）
2025年度新規希望：経営分野	福井 将理	株式会社ロンド	原田研究室（2022修了）
2024年度登壇者：構造分野	市川 瑞生	前田建設工業	小澤研究室（2016修了）
2024年度登壇者：施工分野	菅谷 泰誠	大成建設株式会社	濱崎研究室（2016卒業）
2024年度登壇者：意匠分野	田口 誉	株式会社隈研吾建築都市設計事務所	原田研究室（2010修了）
2024年度候補者：内装分野	木庭袋 樹	コクヨ株式会社	清水研究室（2021年修了）



卒業式で記念撮影

2025年度芝浦建築会会費納入者及び寄付者

2025年度の芝浦建築会会費（会員3,000円/年、新会員1,000円）納入者及び寄付金を頂戴した皆様には厚く御礼申し上げます。納入していただいた皆様の卒業年と名前を下記に紹介させていただきます。芝浦建築会の益々の活性化、発展のために有効に使わせていただく所存でおりますが、今後共、更なるご協力の程をよろしくお願いいたします。（役員一同）

（1967年卒の豊岡幸夫様におかれましては、事務局の誤りにより会報第2号に掲載できず、大変申し訳ございませんでした。）

1958 久保木亮 現教授
1960 藤内哲雄 勢メ和
1961 生沼善左 眞塩浩一
1962 室俊彦 刈谷靖彦
1963 巻渕義雄 辻垣正彦
1964 重原禅 国藤祚光
1965 石井敏明 藤澤好一
1966 石鍋元章 吉田勇
1967 大蔵久 佐藤久松
1969 秋山知也 宮内古勝
1970 阿部安行 平沢勇
鶴巻智信 染谷清
1971 横山茂樹 岩本俊朗
萩原陽一 成毛弘治
戸辺義治 鈴見健夫
小林昌彦 樫原康文
鈴木光昭 榊原周造
小野塚武美 太田勤
1972 太田保 和田伸一
藤森正男 福田俊次
中村周一郎 辻村建
堀井満夫 須田昌孝
枝広英俊 岩本俊朗
佐藤文俊 高瀬茂
國府谷光男 玉井賢一
林誠
1976 石田悟 山口登司
1977 牧野哲也 藤沼三郎
中山登司男 小林一生
小林仁 辺刀強
菊地良一 伊東昭博
1978 飯尾悦男 牧内昭憲
萩野正雄 徳長正俊
竹原基好 柴田満
小関憲幸 金岡敏
青柳惠一郎
1979 吉見光宣 山田厳
月居利久 田口昌男
高橋延幸 田浦英典
松寿章 佐々木隆
見学洋介
1980 石山英行 平出美彦
田賀努 財満勝徳
中村仁
1981 片倉隆幸 張替正延
美原陽太郎
1982 村田優 片山淳夫
1983 千須和正夫 安岡千尋
松永英信 藤本明
宮下俐 木村雅一
江口定治 小薗定夫
1984 大木健逸 渡部伸吾
1985 飯田道広 田中島あい子
齊藤喜代志 鈴木康夫
北川清 大木彬利
竹中亮善 遠藤祥恩
1986 片平義隆 百瀬和浩
田口光好 浅沼亮
1987 西浜清則 宮谷敦
西田哲也 鈴木泉
1988 大路泰司 進藤浩幸
1989 岡本知子 村野謙一
鶴浩一郎 安東和奏
安齊真矢 新井凛之介
荒井美有 安彦凌河
厚樂蓮 足立大二
浅野楓夏 朝野太仁
1990 砂野公一 山下浩司
竹中明彦 高山直明
清田文弘 五十嵐凛凪
五十嵐美咲 井垣朝陽
池田大佳 池滝麻紗
伊吾田由菜 石川昂熙
1991 鈴木剛 渡辺昌秀
栗原幸樹 川口英樹
1992 小田部敏也 磯﨑真緒
和泉圭悟 石橋和樹
石川諒 大森翼
大村航平 大巻里桜
大羽賀直樹 大庭才知
大友柊馬 大塚泰成
大塚銀平 大塚彪斗
大谷梨衣奈 大谷華
大武慎之 太田涼介
大関海音 大嶋千尋
大澤信 大澤弥央
大佐田耀一 大倉聖也
大久保龍 大城翔
1993 服部完志 市原帆香
市毛大翔 市川怜那
1994 西郷一夫 尾竹良太
長部凪来 岡安詠美
岡本空都 岡本紘希
岡千咲 小島拓真
小島陽一郎 小西諄生
越山奈智 高橋光希
高橋瑞歩 高橋優空
高橋光 高橋亨介
高橋紀築 高橋杏子
高橋安梨 高田竜成
高田海斗 高瀬陽
1995 鈴木宏治 一色健吾
1996 秋山恭一 山宮剛
1997 青木哲也 日下部匠
1998 秋山英彦 林奈津子
1999 古市隆志 庵麻由
2000 久保田梢 上田遥希
2001 岡田建一 和田隼人
2002 中村真史 上田妃奈乃
2003 小野健司 山岸敬広
2004 瓜生真彩 梅津沙世
2005 内田結 植村心海
2006 岩山愛海 岩本尚倖
2007 片山颯 加藤珠実
2008 香取明花 加藤龍也
2009 徳田直之 江口大輔
2010 江口稀 川合瑛介
2011 川口真穂 川名美月
2012 下田一輝 清水悟
2013 渋谷朋希 椎名果那美
2014 竹中亮善 渡部伸吾
2015 安岡千尋 松永英信
2016 松永彬利 石石一樹
2017 佐藤久松 大蔵久
2018 宮内古勝 秋山知也
2019 勝部民男 狩野三雄
2020 国藤祚光 重原禅
2021 矢口弘康 白谷武一
2022 辻垣正彦 巻渕義雄
2023 室俊彦 刈谷靖彦
2024 生沼善左 眞塩浩一
2025 藤内哲雄 勢メ和
2026 久保木亮 濱崎仁

1972 太田保 和田伸一
藤森正男 福田俊次
中村周一郎 辻村建
堀井満夫 須田昌孝
枝広英俊 岩本俊朗
1971 横山茂樹 萩原陽一
成毛弘治 戸辺義治
鈴見健夫 小林昌彦
樫原康文 鈴木光昭
榊原周造 小野塚武美
太田勤 阿部安行
1970 平沢勇 鶴巻智信
染谷清 重原禅
国藤祚光 狩野三雄
勝部民男 秋山知也
1969 宮内古勝 佐藤久松
1967 大蔵久 石鍋元章
1966 吉田勇 矢口弘康
白谷武一 石井敏明
1965 藤澤好一 辻垣正彦
1964 巻渕義雄 室俊彦
1963 刈谷靖彦 生沼善左
1962 眞塩浩一 藤内哲雄
勢メ和 久保木亮
現教授 濱崎仁

1981 片倉隆幸 張替正延
美原陽太郎 中村仁
1980 石山英行 平出美彦
田賀努 財満勝徳
1979 吉見光宣 山田厳
月居利久 田口昌男
高橋延幸 田浦英典
松寿章 佐々木隆
見学洋介
1978 飯尾悦男 牧内昭憲
萩野正雄 徳長正俊
竹原基好 柴田満
小関憲幸 金岡敏
青柳惠一郎
1977 牧野哲也 藤沼三郎
中山登司男 小林一生
小林仁 辺刀強
菊地良一 伊東昭博
1976 石田悟 山口登司
長沼寛 斎藤教男
川本勝一 柏本保
加治喜久夫 牛山信康
1974 岩瀬繁 水口譲
長谷川潔 塚田栄一
指山泰和 小薗定夫
亀甲将実 加藤泰久
松田悦朗 増山栄
西村修 直海秀紀
1973 笹本昌代 板垣真人
井ノ川大 井上茉子
伊藤雅菜 伊藤光希
1972 秋山恭一 山宮剛
林奈津子 鈴木宏治
西郷一夫 服部完志
小田部敏也 鈴木剛
渡辺昌秀 栗原幸樹
川口英樹 砂野公一
山下浩司 竹中明彦
高山直明 清田文弘
進藤浩幸 岡本知子
村野謙一 西浜清則
宮谷敦 西田哲也
鈴木泉 片平義隆
百瀬和浩 田口光好
1971 飯島悠樹 安東和奏
安齊真矢 新井凛之介
荒井美有 安彦凌河
厚樂蓮 足立大二
浅野楓夏 朝野太仁
浅沼亮 秋山智哉
赤塚美希音 赤石一樹
松永彬利 竹中亮善
遠藤祥恩 江口稀
川合瑛介 亀井惠勇
神村幸希 神出桜
上久保衣梨 金子智哉
香取明花 加藤龍也
加藤珠実 片山颯
片岡洸貴 梶原鉄馬
柏瀬陸斗
1970 須藤祥樹 鈴木瑠乃
鈴木涼斗 鈴木悠斗
鈴木真衣 北川信太郎
北村匠伍 千藤颯太
瀬戸治基 関谷真成
諏訪桃子 墨蒼生
戸屋志月 冨田萌々子
冨田慎之介 飛田昌克
鳥羽拓郎 時田大輔
道佛佳祐 東條康資
寺田隼 鶴巻佑馬
椿彩花 土田楓奈
辻優季 永井万羽衣
1969 長瀬凛々子 長澤ゆり子
中澤ひなた 中川蓮也
1968 福士大地 福士璃子
山口芽亜 山口麻帆
廣瀬優貴 平山茉鈴
平林尚之 日吉咲希
日野緋奈 茂呂天音
森山夏惟 森根脩二朗
森田大智 森内帆香
森咲月 本山遥樹
本村祐樹 村田悠途
村木詩歩 村上礼門
濱田蒼太 濱口寛太
服部和 初田彩夏
長谷川大樹 橋本峻太
橋本侑樹 萩原廉
野田知宏 野田敦子
野坂妃那 根岸つぐみ
布川雲望 西川隼太
西尾瞬
1967 佐藤文俊 高瀬茂
國府谷光男 玉井賢一
林誠
1966 和田伸一 藤森正男
福田俊次 中村周一郎
辻村建 堀井満夫
須田昌孝 枝広英俊
岩本俊朗 横山茂樹
1965 萩原陽一 成毛弘治
戸辺義治 鈴見健夫
小林昌彦 樫原康文
鈴木光昭 榊原周造
小野塚武美 太田勤
1964 阿部安行 平沢勇
鶴巻智信 染谷清
重原禅 国藤祚光
狩野三雄 勝部民男
1963 秋山知也 宮内古勝
1962 佐藤久松 大蔵久
1961 石鍋元章 吉田勇
1960 矢口弘康 白谷武一
1959 石井敏明 藤澤好一
辻垣正彦 巻渕義雄
1958 室俊彦 刈谷靖彦
生沼善左 眞塩浩一
藤内哲雄 勢メ和
久保木亮 濱崎仁

1957 笹本昌代 板垣真人
井ノ川大 井上茉子
伊藤雅菜 伊藤光希
1956 秋山恭一 山宮剛
林奈津子 鈴木宏治
西郷一夫 服部完志
小田部敏也 鈴木剛
渡辺昌秀 栗原幸樹
川口英樹 砂野公一
山下浩司 竹中明彦
高山直明 清田文弘
進藤浩幸 岡本知子
村野謙一 西浜清則
宮谷敦 西田哲也
鈴木泉 片平義隆
百瀬和浩 田口光好
1955 飯島悠樹 安東和奏
安齊真矢 新井凛之介
荒井美有 安彦凌河
厚樂蓮 足立大二
浅野楓夏 朝野太仁
浅沼亮 秋山智哉
赤塚美希音 赤石一樹
松永彬利 竹中亮善
遠藤祥恩 江口稀
川合瑛介 亀井惠勇
神村幸希 神出桜
上久保衣梨 金子智哉
香取明花 加藤龍也
加藤珠実 片山颯
片岡洸貴 梶原鉄馬
柏瀬陸斗
1954 須藤祥樹 鈴木瑠乃
鈴木涼斗 鈴木悠斗
鈴木真衣 北川信太郎
北村匠伍 千藤颯太
瀬戸治基 関谷真成
諏訪桃子 墨蒼生
戸屋志月 冨田萌々子
冨田慎之介 飛田昌克
鳥羽拓郎 時田大輔
道佛佳祐 東條康資
寺田隼 鶴巻佑馬
椿彩花 土田楓奈
辻優季 永井万羽衣
1953 長瀬凛々子 長澤ゆり子
中澤ひなた 中川蓮也
1952 福士大地 福士璃子
山口芽亜 山口麻帆
廣瀬優貴 平山茉鈴
平林尚之 日吉咲希
日野緋奈 茂呂天音
森山夏惟 森根脩二朗
森田大智 森内帆香
森咲月 本山遥樹
本村祐樹 村田悠途
村木詩歩 村上礼門
濱田蒼太 濱口寛太
服部和 初田彩夏
長谷川大樹 橋本峻太
橋本侑樹 萩原廉
野田知宏 野田敦子
野坂妃那 根岸つぐみ
布川雲望 西川隼太
西尾瞬
1951 水嶋太祐 三嶋柚香
御子柴帆南美 綿引陸
渡邊和子 渡邊美咲
渡瀬圭都 和田尚侑
和田卓巳 脇本一心
若松諒 良本優太
力丸詩雅 蓬田一輝
米田優太 吉本冴希
吉村太一 吉廣せる
吉川慧祐 姚雄大
鎗田侑 山本涼真
山本紗葵 山本章幹
山崎大地 山崎丈
1950 新村恵太 鳴嶌一威
成岡桜 田口双葉
成田晴彦 並木将大
生井沢健斗 奈須遥香
名古屋皓輝 永本悠太
高嶺利子 仲村瑞季
仲村寛太 中村安美香
中村杏子 中野椋平
中根一真 中西大樹
長田怜透 中田新
長瀬凛々子 長澤ゆり子
中澤ひなた 中川蓮也
1949 長瀬優貴 長嶺蒼人
中道大介 中町拓海
星野秀斗 星野太希
星雄太 古屋悠里
古川希 藤原幸太郎
藤山一輝 藤本航揮
藤井瑛仁 福地壮吾
福士璃子 福士大地
真壁拓巳 前川乃碧
松井寛 町田空大
増田晋之介 松浦優貴
松岡芽依 松本然
松本大希 三嶋柚香
御子柴帆南美 綿引陸
渡邊和子 渡邊美咲
渡瀬圭都 和田尚侑
和田卓巳 脇本一心
若松諒 良本優太
力丸詩雅 蓬田一輝
米田優太 吉本冴希
吉村太一 吉廣せる
吉川慧祐 姚雄大
鎗田侑 山本涼真
山本紗葵 山本章幹
山崎大地 山崎丈
1948 笹本昌代 板垣真人
井ノ川大 井上茉子
伊藤雅菜 伊藤光希
1947 秋山恭一 山宮剛
林奈津子 鈴木宏治
西郷一夫 服部完志
小田部敏也 鈴木剛
渡辺昌秀 栗原幸樹
川口英樹 砂野公一
山下浩司 竹中明彦
高山直明 清田文弘
進藤浩幸 岡本知子
村野謙一 西浜清則
宮谷敦 西田哲也
鈴木泉 片平義隆
百瀬和浩 田口光好
1946 飯島悠樹 安東和奏
安齊真矢 新井凛之介
荒井美有 安彦凌河
厚樂蓮 足立大二
浅野楓夏 朝野太仁
浅沼亮 秋山智哉
赤塚美希音 赤石一樹
松永彬利 竹中亮善
遠藤祥恩 江口稀
川合瑛介 亀井惠勇
神村幸希 神出桜
上久保衣梨 金子智哉
香取明花 加藤龍也
加藤珠実 片山颯
片岡洸貴 梶原鉄馬
柏瀬陸斗
1945 須藤祥樹 鈴木瑠乃
鈴木涼斗 鈴木悠斗
鈴木真衣 北川信太郎
北村匠伍 千藤颯太
瀬戸治基 関谷真成
諏訪桃子 墨蒼生
戸屋志月 冨田萌々子
冨田慎之介 飛田昌克
鳥羽拓郎 時田大輔
道佛佳祐 東條康資
寺田隼 鶴巻佑馬
椿彩花 土田楓奈
辻優季 永井万羽衣
1944 長瀬凛々子 長澤ゆり子
中澤ひなた 中川蓮也
1943 福士大地 福士璃子
山口芽亜 山口麻帆
廣瀬優貴 平山茉鈴
平林尚之 日吉咲希
日野緋奈 茂呂天音
森山夏惟 森根脩二朗
森田大智 森内帆香
森咲月 本山遥樹
本村祐樹 村田悠途
村木詩歩 村上礼門
濱田蒼太 濱口寛太
服部和 初田彩夏
長谷川大樹 橋本峻太
橋本侑樹 萩原廉
野田知宏 野田敦子
野坂妃那 根岸つぐみ
布川雲望 西川隼太
西尾瞬
1942 水嶋太祐 三嶋柚香
御子柴帆南美 綿引陸
渡邊和子 渡邊美咲
渡瀬圭都 和田尚侑
和田卓巳 脇本一心
若松諒 良本優太
力丸詩雅 蓬田一輝
米田優太 吉本冴希
吉村太一 吉廣せる
吉川慧祐 姚雄大
鎗田侑 山本涼真
山本紗葵 山本章幹
山崎大地 山崎丈
1941 笹本昌代 板垣真人
井ノ川大 井上茉子
伊藤雅菜 伊藤光希
1940 秋山恭一 山宮剛
林奈津子 鈴木宏治
西郷一夫 服部完志
小田部敏也 鈴木剛
渡辺昌秀 栗原幸樹
川口英樹 砂野公一
山下浩司 竹中明彦
高山直明 清田文弘
進藤浩幸 岡本知子
村野謙一 西浜清則
宮谷敦 西田哲也
鈴木泉 片平義隆
百瀬和浩 田口光好
1939 飯島悠樹 安東和奏
安齊真矢 新井凛之介
荒井美有 安彦凌河
厚樂蓮 足立大二
浅野楓夏 朝野太仁
浅沼亮 秋山智哉
赤塚美希音 赤石一樹
松永彬利 竹中亮善
遠藤祥恩 江口稀
川合瑛介 亀井惠勇
神村幸希 神出桜
上久保衣梨 金子智哉
香取明花 加藤龍也
加藤珠実 片山颯
片岡洸貴 梶原鉄馬
柏瀬陸斗
1938 須藤祥樹 鈴木瑠乃
鈴木涼斗 鈴木悠斗
鈴木真衣 北川信太郎
北村匠伍 千藤颯太
瀬戸治基 関谷真成
諏訪桃子 墨蒼生
戸屋志月 冨田萌々子
冨田慎之介 飛田昌克
鳥羽拓郎 時田大輔
道佛佳祐 東條康資
寺田隼 鶴巻佑馬
椿彩花 土田楓奈
辻優季 永井万羽衣
1937 長瀬凛々子 長澤ゆり子
中澤ひなた 中川蓮也
1936 福士大地 福士璃子
山口芽亜 山口麻帆
廣瀬優貴 平山茉鈴
平林尚之 日吉咲希
日野緋奈 茂呂天音
森山夏惟 森根脩二朗
森田大智 森内帆香
森咲月 本山遥樹
本村祐樹 村田悠途
村木詩歩 村上礼門
濱田蒼太 濱口寛太
服部和 初田彩夏
長谷川大樹 橋本峻太
橋本侑樹 萩原廉
野田知宏 野田敦子
野坂妃那 根岸つぐみ
布川雲望 西川隼太
西尾瞬
1935 水嶋太祐 三嶋柚香
御子柴帆南美 綿引陸
渡邊和子 渡邊美咲
渡瀬圭都 和田尚侑
和田卓巳 脇本一心
若松諒 良本優太
力丸詩雅 蓬田一輝
米田優太 吉本冴希
吉村太一 吉廣せる
吉川慧祐 姚雄大
鎗田侑 山本涼真
山本紗葵 山本章幹
山崎大地 山崎丈
1934 笹本昌代 板垣真人
井ノ川大 井上茉子
伊藤雅菜 伊藤光希
1933 秋山恭一 山宮剛
林奈津子 鈴木宏治
西郷一夫 服部完志
小田部敏也 鈴木剛
渡辺昌秀 栗原幸樹
川口英樹 砂野公一
山下浩司 竹中明彦
高山直明 清田文弘
進藤浩幸 岡本知子
村野謙一 西浜清則
宮谷敦 西田哲也
鈴木泉 片平義隆
百瀬和浩 田口光好
1932 飯島悠樹 安東和奏
安齊真矢 新井凛之介
荒井美有 安彦凌河
厚樂蓮 足立大二
浅野楓夏 朝野太仁
浅沼亮 秋山智哉
赤塚美希音 赤石一樹
松永彬利 竹中亮善
遠藤祥恩 江口稀
川合瑛介 亀井惠勇
神村幸希 神出桜
上久保衣梨 金子智哉
香取明花 加藤龍也
加藤珠実 片山颯
片岡洸貴 梶原鉄馬
柏瀬陸斗
1931 須藤祥樹 鈴木瑠乃
鈴木涼斗 鈴木悠斗
鈴木真衣 北川信太郎
北村匠伍 千藤颯太
瀬戸治基 関谷真成
諏訪桃子 墨蒼生
戸屋志月 冨田萌々子
冨田慎之介 飛田昌克
鳥羽拓郎 時田大輔
道佛佳祐 東條康資
寺田隼 鶴巻佑馬
椿彩花 土田楓奈
辻優季 永井万羽衣
1930 長瀬凛々子 長澤ゆり子
中澤ひなた 中川蓮也
1929 福士大地 福士璃子
山口芽亜 山口麻帆
廣瀬優貴 平山茉鈴
平林尚之 日吉咲希
日野緋奈 茂呂天音
森山夏惟 森根脩二朗
森田大智 森内帆香
森咲月 本山遥樹
本村祐樹 村田悠途
村木詩歩 村上礼門
濱田蒼太 濱口寛太
服部和 初田彩夏
長谷川大樹 橋本峻太
橋本侑樹 萩原廉
野田知宏 野田敦子
野坂妃那 根岸つぐみ
布川雲望 西川隼太
西尾瞬
1928 水嶋太祐 三嶋柚香
御子柴帆南美 綿引陸
渡邊和子 渡邊美咲
渡瀬圭都 和田尚侑
和田卓巳 脇本一心
若松諒 良本優太
力丸詩雅 蓬田一輝
米田優太 吉本冴希
吉村太一 吉廣せる
吉川慧祐 姚雄大
鎗田侑 山本涼真
山本紗葵 山本章幹
山崎大地 山崎丈
1927 笹本昌代 板垣真人
井ノ川大 井上茉子
伊藤雅菜 伊藤光希
1926 秋山恭一 山宮剛
林奈津子 鈴木宏治
西郷一夫 服部完志
小田部敏也 鈴木剛
渡辺昌秀 栗原幸樹
川口英樹 砂野公一
山下浩司 竹中明彦
高山直明 清田文弘
進藤浩幸 岡本知子
村野謙一 西浜清則
宮谷敦 西田哲也
鈴木泉 片平義隆
百瀬和浩 田口光好
1925 飯島悠樹 安東和奏
安齊真矢 新井凛之介
荒井美有 安彦凌河
厚樂蓮 足立大二
浅野楓夏 朝野太仁
浅沼亮 秋山智哉
赤塚美希音 赤石一樹
松永彬利 竹中亮善
遠藤祥恩 江口稀
川合瑛介 亀井惠勇
神村幸希 神出桜
上久保衣梨 金子智哉
香取明花 加藤龍也
加藤珠実 片山颯
片岡洸貴 梶原鉄馬
柏瀬陸斗
1924 須藤祥樹 鈴木瑠乃
鈴木涼斗 鈴木悠斗
鈴木真衣 北川信太郎
北村匠伍 千藤颯太
瀬戸治基 関谷真成
諏訪桃子 墨蒼生
戸屋志月 冨田萌々子
冨田慎之介 飛田昌克
鳥羽拓郎 時田大輔
道佛佳祐 東條康資
寺田隼 鶴巻佑馬
椿彩花 土田楓奈
辻優季 永井万羽衣
1923 長瀬凛々子 長澤ゆり子
中澤ひなた 中川蓮也
1922 福士大地 福士璃子
山口芽亜 山口麻帆
廣瀬優貴 平山茉鈴
平林尚之 日吉咲希
日野緋奈 茂呂天音
森山夏惟 森根脩二朗
森田大智 森内帆香
森咲月 本山遥樹
本村祐樹 村田悠途
村木詩歩 村上礼門
濱田蒼太 濱口寛太
服部和 初田彩夏
長谷川大樹 橋本峻太
橋本侑樹 萩原廉
野田知宏 野田敦子
野坂妃那 根岸つぐみ
布川雲望 西川隼太
西尾瞬
1921 水嶋太祐 三嶋柚香
御子柴帆南美 綿引陸
渡邊和子 渡邊美咲
渡瀬圭都 和田尚侑
和田卓巳 脇本一心
若松諒 良本優太
力丸詩雅 蓬田一輝
米田優太 吉本冴希
吉村太一 吉廣せる
吉川慧祐 姚雄大
鎗田侑 山本涼真
山本紗葵 山本章幹
山崎大地 山崎丈
1920 笹本昌代 板垣真人
井ノ川大 井上茉子
伊藤雅菜 伊藤光希
1919 秋山恭一 山宮剛
林奈津子 鈴木宏治
西郷一夫 服部完志
小田部敏也 鈴木剛
渡辺昌秀 栗原幸樹
川口英樹 砂野公一
山下浩司 竹中明彦
高山直明 清田文弘
進藤浩幸 岡本知子
村野謙一 西浜清則
宮谷敦 西田哲也
鈴木泉 片平義隆
百瀬和浩 田口光好
1918 飯島悠樹 安東和奏
安齊真矢 新井凛之介
荒井美有 安彦凌河
厚樂蓮 足立大二
浅野楓夏 朝野太仁
浅沼亮 秋山智哉
赤塚美希音 赤石一樹
松永彬利 竹中亮善
遠藤祥恩 江口稀
川合瑛介 亀井惠勇
神村幸希 神出桜
上久保衣梨 金子智哉
香取明花 加藤龍也
加藤珠実 片山颯
片岡洸貴 梶原鉄馬
柏瀬陸斗
1917 須藤祥樹 鈴木瑠乃
鈴木涼斗 鈴木悠斗
鈴木真衣 北川信太郎
北村匠伍 千藤颯太
瀬戸治基 関谷真成
諏訪桃子 墨蒼生
戸屋志月 冨田萌々子
冨田慎之介 飛田昌克
鳥羽拓郎 時田大輔
道佛佳祐 東條康資
寺田隼 鶴巻佑馬
椿彩花 土田楓奈
辻優季 永井万羽衣
1916 長瀬凛々子 長澤ゆり子
中澤ひなた 中川蓮也
1915 福士大地 福士璃子
山口芽亜 山口麻帆
廣瀬優貴 平山茉鈴
平林尚之 日吉咲希
日野緋奈 茂呂天音
森山夏惟 森根脩二朗
森田大智 森内帆香
森咲月 本山遥樹
本村祐樹 村田悠途
村木詩歩 村上礼門
濱田蒼太 濱口寛太
服部和 初田彩夏
長谷川大樹 橋本峻太
橋本侑樹 萩原廉
野田知宏 野田敦子
野坂妃那 根岸つぐみ
布川雲望 西川隼太
西尾瞬
1914 水嶋太祐 三嶋柚香
御子柴帆南美 綿引陸
渡邊和子 渡邊美咲
渡瀬圭都 和田尚侑
和田卓巳 脇本一心
若松諒 良本優太
力丸詩雅 蓬田一輝
米田優太 吉本冴希
吉村太一 吉廣せる
吉川慧祐 姚雄大
鎗田侑 山本涼真
山本紗葵 山本章幹
山崎大地 山崎丈
1913 笹本昌代 板垣真人
井ノ川大 井上茉子
伊藤雅菜 伊藤光希
1912 秋山恭一 山宮剛
林奈津子 鈴木宏治
西郷一夫 服部完志
小田部敏也 鈴木剛
渡辺昌秀 栗原幸樹
川口英樹 砂野公一
山下浩司 竹中明彦
高山直明 清田文弘
進藤浩幸 岡本知子
村野謙一 西浜清則
宮谷敦 西田哲也
鈴木泉 片平義隆
百瀬和浩 田口光好
1911 飯島悠樹 安東和奏
安齊真矢 新井凛之介
荒井美有 安彦凌河
厚樂蓮 足立大二
浅野楓夏 朝野太仁
浅沼亮 秋山智哉
赤塚美希音 赤石一樹
松永彬利 竹中亮善
遠藤祥恩 江口稀
川合瑛介 亀井惠勇
神村幸希 神出桜
上久保衣梨 金子智哉
香取明花 加藤龍也
加藤珠実 片山颯
片岡洸貴 梶原鉄馬
柏瀬陸斗
1910 須藤祥樹 鈴木瑠乃
鈴木涼斗 鈴木悠斗
鈴木真衣 北川信太郎
北村匠伍 千藤颯太
瀬戸治基 関谷真成
諏訪桃子 墨蒼生
戸屋志月 冨田萌々子
冨田慎之介 飛田昌克
鳥羽拓郎 時田大輔
道佛佳祐 東條康資
寺田隼 鶴巻佑馬
椿彩花 土田楓奈
辻優季 永井万羽衣
1909 長瀬凛々子 長澤ゆり子
中澤ひなた 中川蓮也
1908 福士大地 福士璃子
山口芽亜 山口麻帆
廣瀬優貴 平山茉鈴
平林尚之 日吉咲希
日野緋奈 茂呂天音
森山夏惟 森根脩二朗
森田大智 森内帆香
森咲月 本山遥樹
本村祐樹 村田悠途
村木詩歩 村上礼門
濱田蒼太 濱口寛太
服部和 初田彩夏
長谷川大樹 橋本峻太
橋本侑樹 萩原廉
野田知宏 野田敦子
野坂妃那 根岸つぐみ
布川雲望 西川隼太
西尾瞬
1907 水嶋太祐 三嶋柚香
御子柴帆南美 綿引陸
渡邊和子 渡邊美咲
渡瀬圭都 和田尚侑
和田卓巳 脇本一心
若松諒 良本優太
力丸詩雅 蓬田一輝
米田優太 吉本冴希
吉村太一 吉廣せる
吉川慧祐 姚雄大
鎗田侑 山本涼真
山本紗葵 山本章幹
山崎大地 山崎丈
1906 笹本昌代 板垣真人
井ノ川大 井上茉子
伊藤雅菜 伊藤光希
1905 秋山恭一 山宮剛
林奈津子 鈴木宏治
西郷一夫 服部完志
小田部敏也 鈴木剛
渡辺昌秀 栗原幸樹
川口英樹 砂野公一
山下浩司 竹中明彦
高山直明 清田文弘
進藤浩幸 岡本知子
村野謙一 西浜清則
宮谷敦 西田哲也
鈴木泉 片平義隆
百瀬和浩 田口光好
1904 飯島悠樹 安東和奏
安齊真矢 新井凛之介
荒井美有 安彦凌河
厚樂蓮 足立大二
浅野楓夏 朝野太仁
浅沼亮 秋山智哉
赤塚美希音 赤石一樹
松永彬利 竹中亮善
遠藤祥恩 江口稀
川合瑛介 亀井惠勇
神村幸希 神出桜
上久保衣梨 金子智哉
香取明花 加藤龍也
加藤珠実 片山颯
片岡洸貴 梶原鉄馬
柏瀬陸斗
1903 須藤祥樹 鈴木瑠乃
鈴木涼斗 鈴木悠斗
鈴木真衣 北川信太郎
北村匠伍 千藤颯太
瀬戸治基 関谷真成
諏訪桃子 墨蒼生
戸屋志月 冨田萌々子
冨田慎之介 飛田昌克
鳥羽拓郎 時田大輔
道佛佳祐 東條康資
寺田隼 鶴巻佑馬
椿彩花 土田楓奈
辻優季 永井万羽衣
1902 長瀬凛々子 長澤ゆり子
中澤ひなた 中川蓮也
1901 福士大地 福士璃子
山口芽亜 山口麻帆
廣瀬優貴 平山茉鈴
平林尚之 日吉咲希
日野緋奈 茂呂天音
森山夏惟 森根脩二朗
森田大智 森内帆香
森咲月 本山遥樹
本村祐樹 村田悠途
村木詩歩 村上礼門
濱田蒼太 濱口寛太
服部和 初田彩夏
長谷川大樹 橋本峻太
橋本侑樹 萩原廉
野田知宏 野田敦子
野坂妃那 根岸つぐみ
布川雲望 西川隼太
西尾瞬
1900 水嶋太祐 三嶋柚香
御子柴帆南美 綿引陸
渡邊和子 渡邊美咲
渡瀬圭都 和田尚侑
和田卓巳 脇本一心
若松諒 良本優太
力丸詩雅 蓬田一輝
米田優太 吉本冴希
吉村太一 吉廣せる
吉川慧祐 姚雄大
鎗田侑 山本涼真
山本紗葵 山本章幹
山崎大地 山崎丈
1899 笹本昌代 板垣真人
井ノ川大 井上茉子
伊藤雅菜 伊藤光希
1898 秋山恭一 山宮剛
林奈津子 鈴木宏治
西郷一夫 服部完志
小田部敏也 鈴木剛
渡辺昌秀 栗原幸樹
川口英樹 砂野公一
山下浩司 竹中明彦
高山直明 清田文弘
進藤浩幸 岡本知子
村野謙一 西浜清則
宮谷敦 西田哲也
鈴木泉 片平義隆
百瀬和浩 田口光好
1897 飯島悠樹 安東和奏
安齊真矢 新井凛之介
荒井美有 安彦凌河
厚樂蓮 足立大二
浅野楓夏 朝野太仁
浅沼亮 秋山智哉
赤塚美希音 赤石一樹
松永彬利 竹中亮善
遠藤祥恩 江口稀
川合瑛介 亀井惠勇
神村幸希 神出桜
上久保衣梨 金子智哉
香取明花 加藤龍也
加藤珠実 片山颯
片岡洸貴 梶原鉄馬
柏瀬陸斗
1896 須藤祥樹 鈴木瑠乃
鈴木涼斗 鈴木悠斗
鈴木真衣 北川信太郎
北村匠伍 千藤颯太
瀬戸治基 関谷真成
諏訪桃子 墨蒼生
戸屋志月 冨田萌々子
冨田慎之介 飛田昌克
鳥羽拓郎 時田大輔
道佛佳祐 東條康資
寺田隼 鶴巻佑馬
椿彩花 土田楓奈
辻優季 永井万羽衣
1895 長瀬凛々子 長澤ゆり子
中澤ひなた 中川蓮也
1894 福士大地 福士璃子
山口芽亜 山口麻帆
廣瀬優貴 平山茉鈴
平林尚之 日吉咲希
日野緋奈 茂呂天音
森山夏惟 森根脩二朗
森田大智 森内帆香
森咲月 本山遥樹
本村祐樹 村田悠途
村木詩歩 村上礼門
濱田蒼太 濱口寛太
服部和 初田彩夏
長谷川大樹 橋本峻太
橋本侑樹 萩原廉
野田知宏 野田敦子
野坂妃那 根岸つぐみ
布川雲望 西川隼太
西尾瞬
1893 水嶋太祐 三嶋柚香
御子柴帆南美 綿引陸
渡邊和子 渡邊美咲
渡瀬圭都 和田尚侑
和田卓巳 脇本一心
若松諒 良本優太
力丸詩雅 蓬田一輝
米田優太 吉本冴希
吉村太一 吉廣せる
吉川慧祐 姚雄大
鎗田侑 山本涼真
山本紗葵 山本章幹
山崎大地 山崎丈
1892 笹本昌代 板垣真人
井ノ川大 井上茉子
伊藤雅菜 伊藤光希
1891 秋山恭一 山宮剛
林奈津子 鈴木宏治
西郷一夫 服部完志
小田部敏也 鈴木剛
渡辺昌秀 栗原幸樹
川口英樹 砂野公一
山下浩司 竹中明彦
高山直明 清田文弘
進藤浩幸 岡本知子
村野謙一 西浜清則
宮谷敦 西田哲也
鈴木泉 片平義隆
百瀬和浩 田口光好
1890 飯島悠樹 安東和奏
安齊真矢 新井凛之介
荒井美有 安彦凌河
厚樂蓮 足立大二
浅野楓夏 朝野太仁
浅沼亮 秋山智哉
赤塚美希音 赤石一樹
松永彬利 竹中亮善
遠藤祥恩 江口稀
川合瑛介 亀井惠勇
神村幸希 神出桜
上久保衣梨 金子智哉
香取明花 加藤龍也
加藤珠実 片山颯
片岡洸貴 梶原鉄馬
柏瀬陸斗
1889 須藤祥樹 鈴木瑠乃
鈴木涼斗 鈴木悠斗
鈴木真衣 北川信太郎
北村匠伍 千藤颯太
瀬戸治基 関谷真成
諏訪桃子 墨蒼生
戸屋志月 冨田萌々子
冨田慎之介 飛田昌克
鳥羽拓郎 時田大輔
道佛佳祐 東條康資
寺田隼 鶴巻佑馬
椿彩花 土田楓奈
辻優季 永井万羽衣
1888 長瀬凛々子 長澤ゆり子
中澤ひなた 中川蓮也
1887 福士大地 福士璃子
山口芽亜 山口麻帆
廣瀬優貴 平山茉鈴
平林尚之 日吉咲希
日野緋奈 茂呂天音
森山夏惟 森根脩二朗
森田大智 森内帆香
森咲月 本山遥樹
本村祐樹 村田悠途
村木詩歩 村上礼門
濱田蒼太 濱口寛太
服部和 初田彩夏
長谷川大樹 橋本峻太
橋本侑樹 萩原廉
野田知宏 野田敦子
野坂妃那 根岸つぐみ
布川雲望 西川隼太
西尾瞬
1886 水嶋太祐 三嶋柚香
御子柴帆南美 綿引陸
渡邊和子 渡邊美咲
渡瀬圭都 和田尚侑
和田卓巳 脇本一心
若松諒 良本優太
力丸詩雅 蓬田一輝
米田優太 吉本冴希
吉村太一 吉廣せる
吉川慧祐 姚雄大
鎗田侑 山本涼真
山本紗葵 山本章幹
山崎大地 山崎丈
1885 笹本昌代 板垣真人
井ノ川大 井上茉子
伊藤雅菜 伊藤光希
1884 秋山恭一 山宮剛
林奈津子 鈴木宏治
西郷一夫 服部完志
小田部敏也 鈴木剛
渡辺昌秀 栗原幸樹
川口英樹 砂野公一
山下浩司 竹中明彦
高山直明 清田文弘
進藤浩幸 岡本知子
村野謙一 西浜清則
宮谷敦 西田哲也
鈴木泉 片平義隆
百瀬和浩 田口光好
1883 飯島悠樹 安東和奏
安齊真矢 新井凛之介
荒井美有 安彦凌河
厚樂蓮 足立大二
浅野楓夏 朝野太仁
浅沼亮 秋山智哉
赤塚美希音 赤石一樹
松永彬利 竹中亮善
遠藤祥恩 江口稀
川合瑛介 亀井惠勇
神村幸希 神出桜
上久保衣梨 金子智哉
香取明花 加藤龍也
加藤珠実 片山颯
片岡

会計報告

2025年度　会計報告

収入	繰越金		2,780,121
	年会費	169名×3,000円	507,000
	前年度会費	14名×3,000円	42,000
	新会員会費	360名×1,000円	360,000
	寄付	90名	231,000
	校友会支部助成金	150,000円(定額)・53,000円(定率)	203,000
	総会お祝い金	理事長・校友会会長	40,000
		小　計	4,163,121
支出	会報	印刷2,830部、封筒1,390枚、払込票1,400枚 イベント案内1,378枚	324,379
	同上封入代	宛名シール1,340枚	62,480
	同上発送料	180円×1,340通	241,200
	同上デザイン	構成料他	110,000
	定期総会案内状	封筒、返信はがき、案内状1,320通、印刷代	113,190
	同上郵送料	110円×1,275通	140,250
	大学への寄付	大学100周年事業・地方学生支援金	100,000
	芝浦建築会賞	卒業生3名、賞及び記念品	79,174
	学校行事支援	デザインチャンピオンシップ	121,663
	総会懇親会	助成金	74,000
	展示会懇親会	助成金	92,000
	就職座談会	助成金	20,000
	校友会	全国総会・懇親会支部賛助金	20,000
	事務費	振込手数料・返信ハガキ手数料	31,384
		小　計	1,529,720
次期繰越金			¥2,633,401

2026年度　予算案

収入	繰越金		2,633,401
	年会費	200 名× 3,000 円 / 年	600,000
	新会員入会費	300 名× 1,000 円 / 年	300,000
	寄付	100 名	300,000
	校友会支部助成金	150,000 円 (定額) ・ 50,000 円 (定率)	200,000
	総会お祝い金	大学・校友会	40,000
		小　計	4,073,401
支出	会報	印刷 3,000 部、封筒 1,500 枚	350,000
	同上発送料	1,400 通	270,000
	同上デザイン	構成料他	110,000
	総会案内状	封筒・返信ハガキ・印刷 1,200 部	250,000
	学校行事支援	デザインチャンピオンシップ	150,000
	芝浦建築会賞	卒業生 3 名、賞及び記念品	100,000
	就職座談会	助成金	30,000
	学位授与式	出席と祝辞	20,000
	校友会	全国総会・懇親会支部賛助金	20,000
	事務費	払込手数料・郵送料	30,000
		HP サーバーレンタル料、更新費用等	120,000
	通常総会	懇親会費用助成金	50,000
	大学への寄付	地方学生支援資金	100,000
	予備費	講座、レクチャー、展示会等	300,000
		小　計	1,900,000
繰越金			¥2,173,401

会費納入のお願い

建築会は、皆さまからの 年会費（3,000円）や 一口1,000円からのご寄付 に支えられ、会報の発行、在校生への支援・顕彰、卒業生の交流の拠り所となる活動 を行っております。
これらの活動を今後も継続し、さらに充実させていくためにも、皆さまの温かいご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。
お支払い方法は、以下の２つからお選びいただけます。

1）同封の払込用紙による銀行振込
2）当会ホームページからの クレジットカードまたはデビットカード決済

なお、年会費の年度区分は、振込日またはカード決済日が属する年度 として取り扱います。

イベント案内

●「藤井博巳先生を偲ぶ会」のご案内

建築家 芝浦工業大学名誉教授の藤井博巳先生は令和 5 年 11 月10 日にご逝去され、「藤井博巳先生を偲ぶ会」を豊洲キャンパスにて下記の通り執り行うこととなりました

記

「藤井博巳先生を偲ぶ会」
日時：令和8年11月22日(日)　午後4時より午後6時
　　(受付 午後3時30分より)
場所：芝浦工業大学 豊洲キャンパス　1階
　　東京都江東区豊洲3丁目7番5
　　銀座シシリア 豊洲店にて
会費：8,000 円　　平服
11月9日までに下記の入力フォーム あるいは メールアドレスへご返信ください
　入力フォーム https://forms.gle/eDBccYuEDMBgYQKJ9
　メール(発起人 笠島俊一) hiromifujii20261122@gmail.com
※お送りいただいた情報は本会のご案内と藤井博巳先生に関する告知にのみ使用します

同時開催「藤井博巳先生未発表ドローイング展示」
日時：11月22、23日 午後1時～午後5時
場所：有元史郎記念校友会館交流プラザ１階にて
　　豊洲キャンパス内入場無料

2026年度役員

会　長		辺見　強　1976卒
副会長		百瀬和浩　1985卒
		川口英樹　1990卒
		秋元孝之　(建築学部長・学科主任)
事務局	局長	徳田直之　2009卒
	局員	米嶋　貢　1985卒
会　計		郷田修身　1991卒 (建築学部教授)
		石黒　光　1996卒
会計監査		松寿　章　1978卒
		西郷一夫　1994卒
幹　事		浅見　勝　1976卒
		石山英行　1980卒
		片倉隆幸　1981卒
		木村雅一　1982卒
		宮谷　敦　1986卒
		小野健司　2003卒
		栗竹勇介　2022卒
		井筒悠斗　2023卒
		森日菜子　2025卒
		濱崎　仁　(建築学部教授)
		志手一哉　(建築学部教授)
		岸田慎司　(SA コース代表)
		椛山健二　(UA コース代表)
		谷口大造　(AP コース代表)
顧　問		染谷　清　1969卒

あとがき

2021年12月の会発足以来、活動報告と大学や卒業生の動向をお伝えすべく欠かさず会報を発行してまいりましたが、今回ここに第５号をお届けします。
今回も各方面にて活躍の卒業生、進化し続ける建築学部の姿を余すことなくお伝え出来たと思います。
本号を制作するにあたり寄稿、編集、協力いただきました皆さまにはここであらためて御礼申し上げます。

【芝浦建築会　副会長　百瀬 和浩】

●お問い合わせ ： info@sit-archi.com
●発行者 ： 芝浦工業大学　芝浦建築会　〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5